

基準1 教育の内部質保証システム

観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか。

本校では、教育活動を中心とした学校活動の総合的な状況について、将来計画・自己点検等委員会（以下、本委員会という）が中心となって、自己点検・自己評価を行っている。本委員会において、7年以内ごとに実施される大学改革支援・学位授与機構での認証評価、所謂、機関別認証評価に基づき、資料1-1-①-1、1-1-①-2、1-1-①-3により、実施計画・方針が示され、実施体制を確立している。実施計画において、学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の評価基準、視点及び観点の各項目を考慮して自己点検・評価の項目を定め、学内の各主事団、委員会及び事務部において、必要なデータ及び情報を定期的かつ体系的に収集、整理している。そして点検・評価を行い、情報共有がなされる体制を整えている。また、本委員会は、実施計画の進捗状況を定期的に確認するとともに、自己点検・評価が適宜活用されていることを確認している。

観点1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。

本委員会の下、資料1-1-②-2に示されている学内の教育研究活動評価等委員会、教務委員会、アクティブラーニングセンター運営委員会、専攻科委員会、外部評価委員及び教員・学生が一体となり、機関別認証評価に関するデータ、資料を定期的に収集・蓄積している。このデータや資料の収集、蓄積状況は、前回（平成30年度）の高等専門学校機関別認証評価以降、令和3年度まで、資料1-1-②-1に示すとおりである。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う遠隔授業の実施で開発されたMicrosoft365のアプリケーションを使用し、授業アンケート、成績資料、授業点検書などの8項目の内、5項目はオンライン化で実施され、迅速に収集、整理を行っている。自己点検・評価の結果の公表については、資料1-1-②-3に示すように、平成28年度、平成22年度、平成17年度の「自己点検・評価報告書」として、本校のウェブサイト公表している。

観点1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。

教員に対しては、授業点検書（資料1-1-③-1）、研究授業で意見聴取を行っている。職員に対しても、意見聴取を行っている。在学生に対しては、授業アンケート（資料1-1-③-2）、教育目的と学習・教育目標に関する意識調査を行っており、その結果は資料1-1-③-3のとおりである。卒業（修了）時の学生に対しては、卒業時アンケート、修了時アンケートを行っている（資料1-1-③-4）。卒業（修了）後の学生に対しては、数年毎に卒業生・修了生へのアンケートを行っている（資料1-1-③-5）。保護者に対しては、後援会総会を通じて意見を頂く機会がある。また、有識者懇談会の外部評価等の結果も踏まえて自己点検・評価を行っている（資料1-1-③-6）。聴取した意見の反映は、その内容に応じて、担当教員や関連部署がその内容を確認し、必要な改善に向けた取り組みを行っている。

観点1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。

自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるために、イノベーションオフィスと関連委員会（アクティブラーニングセンター（FD部門）、教務委員会、専攻科委員会、教育研究活動評価等委員会、外部評価委員会等）が連携して内部質保証システムとしてのPDCAサイクルを運用する体制が整備されている（資料1-1-①-1、資料1-1-④-1～6）。平成30年度の機関別認証評価では2件、平成28年度の自己点検・評価では9件の改善を要する事項が指摘されたが、本体制により全ての事項の対応を行っている。一例として、機関別認証評価では「アドミッション・ポリシー」と「成績評価の厳密性・客観性」に関する事項で改善を要する指摘があったが、前者については、関連委員会等でアドミッション・ポリシーを改定し、本校ウェブサイトや学生募集要項に掲載し積極的に周知を進めている（資料1-1-④-7）。また、後者については、授業点検書による確認作業や成績評価根拠資料の保管作業を実施し、成績評価の厳密性・客観性を担保している（資料1-1-④-8）。他の改善を要する事項についても積極的な改善活動が継続されており、本体制が機能していることが確認できる（資料1-1-④-9～16）。

観点1-2-① 準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

本校の教育目的は豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した 専門の知識・技術を教授し、豊かな人間性、柔軟な問題解決能力、実践的な技術力、豊かな国際性と指導力を備えた技術者を養成することである。この教育目的に基づき、ディプロマ・ポリシーでは、資料1-2-①-1～4に示す、機械工学、電気情報工学、都市システム工学、建築学の各学科の領域における分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を身に着けたものに卒業を認定することを明確に定めている。

観点1-2-② 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

本校のディプロマ・ポリシーで定めた分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するために、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成し、明確に定めている。この点で、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性があると言える。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開している。また、各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定している（資料1-2-②-1～4）。

観点1-2-③ 準学士課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

本校の教育目的は、豊かな教養と感性を育てると共に、科学技術の進歩に対応した 専門の知識・技術

を教授し、豊かな人間性、柔軟な問題解決能力、実践的な技術力、豊かな国際性と指導力を備えた技術者を養成することである。その目的を踏まえて定められた、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、資料1-1-④-7に示すように、準学士課程の入学生の推薦選抜、学力選抜、帰国子女特別選抜試験及び、工業高校からの第4学年への編入学生の学力選抜試験でのアドミッション・ポリシーが明確に定められている。

観点1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）には、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示すとともに、「何ができるようになるか」に力点を置き、どのような学習成果を上げると修了できるかが具体的に示めされているとともに、学校の目的を踏まえて定められており、それらは専攻ごとの目的と整合性を有している（資料1-2-④-1）。

観点1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性を持ち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

本校のディプロマ・ポリシーで定めた分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するために、各専攻の教育課程を編成し、明確に定めている。この点で、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性があると言える。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開している。また、各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定している（資料1-2-④-1、1-2-⑤-1）。

観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、入学者選抜の基本方針及び、受入れられる学生に求める学習成果を含む求める学生像を明示し、受入れられる学生に求める学習成果には、学力の3要素に係る内容が含まれており、学校や専攻科課程の目的、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて専攻ごとに定められている（資料1-2-④-1、1-2-⑤-1）。また、本校のウェブサイトや学生募集要項の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）においても、入学者選抜の基本方針が適切に示されている（資料1-2-⑥-1）。

観点1-3-① 学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているか。

本校では、教務委員会が、学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等の変化に応じて内容を点検し、必要に応じて見直しを行っている。直近では、令和2年度にディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを学科ごとに設定をしておいた（資料1-3-①-1）。

【優れた点及び改善を要する点】

（優れた点）

学校の総合的な状況について、根拠資料の収集や関係者（在校生、卒業生・修了生、教員、企業）からの意見聴取の結果を基に、継続的に自己点検・評価を行いながら、その結果や外部評価（有識者懇談会）等により、逐次、改善を実施している。継続的に自己点検・評価を行うことで、教育の内部質保証システムが確立できている。

また、自己点検・評価の実施方針に基づき、イノベーションオフィス、アクティブラーニングセンター（FD部門）、教務委員会、専攻科委員会、教育研究活動評価等委員会、外部評価委員会等が連携して、前回の自己点検・評価や第三者評価等で指摘された改善を要する事項の全てについて、改善活動を継続し、教育の質の向上を図っている。この点からも、教育の内部質保証をしていると言える。

（改善を要する点）

本校は、平成26年度に国立高専のグローバル高専モデル事業の1校に認定されているが、準学士課程、専攻科課程におけるアドミッション・ポリシーは、例えば、アクティブラーニング教育、グローバル教育、ICT教育に特化した入学者の学生像には、なっていないように思える。この点については、早急に検討・改善が必要と思われる。

資料 1-1-①-1

「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」

明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針

(平成 30 年 8 月 8 日 運営会議決定)

(令和 2 年 8 月 12 日 一部改正)

1 趣旨

国立高等専門学校は、職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的としている。また、これまで蓄積してきた知的資産や技術的成果をもとに、生産現場における技術相談や共同研究など地域や産業界との連携への期待に応えることを求められている。

他方、高等専門学校は、学校教育法（平成 22 年法律第 26 号）第 109 条第 1 項により、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することが義務付けられている。そして、各学校は、その結果に基づいた改善を行うことが必要とされている。

本実施方針は、本校の実施する自己点検・評価の基本的な事項を定めるものである。

なお、教員活動に関する点検及び評価については、教育研究活動評価等委員会が実施する。また、外部評価については、外部評価実施要項に基づき実施する。

2 取りまとめ時期

自己点検・評価は、本校の活動内容に応じ、評価に基づく改善を実施する上で適切な時期に行うべきものであるが、高等専門学校は、自己点検・評価の措置に加え、当該学校の教育研究等の総合的な状況について、7 年以内ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価（以下「認証評価」という。）を受けることが義務付けられている。（学校教育法第 109 条第 2 項、第 123 条及び学校教育法施行令第 40 条）

よって、本校は、基本的には、認証評価を受けた 3 年後の年度に自己点検・評価を取りまとめるものとする。

3 実施体制

本校は、将来計画・自己点検等委員会が中心になって、自己点検・評価を行う。

将来計画・自己点検等委員会は次回の自己点検・評価に向けて実施計画を作成する。

実施計画においては、高等専門学校機関別認証評価の「自己評価書」で定められている基準、視点及び観点の各項目を考慮して自己点検・評価の項目を定め、関係の学内委員会及び事務部において、必要なデータ及び情報を定期的かつ体系的に収集及び整理し、そして点検・評価を行い、情報共有がなされる体制を整える。

なお、将来計画・自己点検等委員会は、実施計画の進捗状況を定期的に確認するとともに、自己点検・評価活動の活用及び効率に配慮するものとする。

4 自己点検・評価結果の公表

将来計画・自己点検等委員会は、自己点検・評価の結果に基づき、本校における自己点検・評価として取りまとめ、本校は、その性質上開示に適さないものを除き、これを公表するものとする。

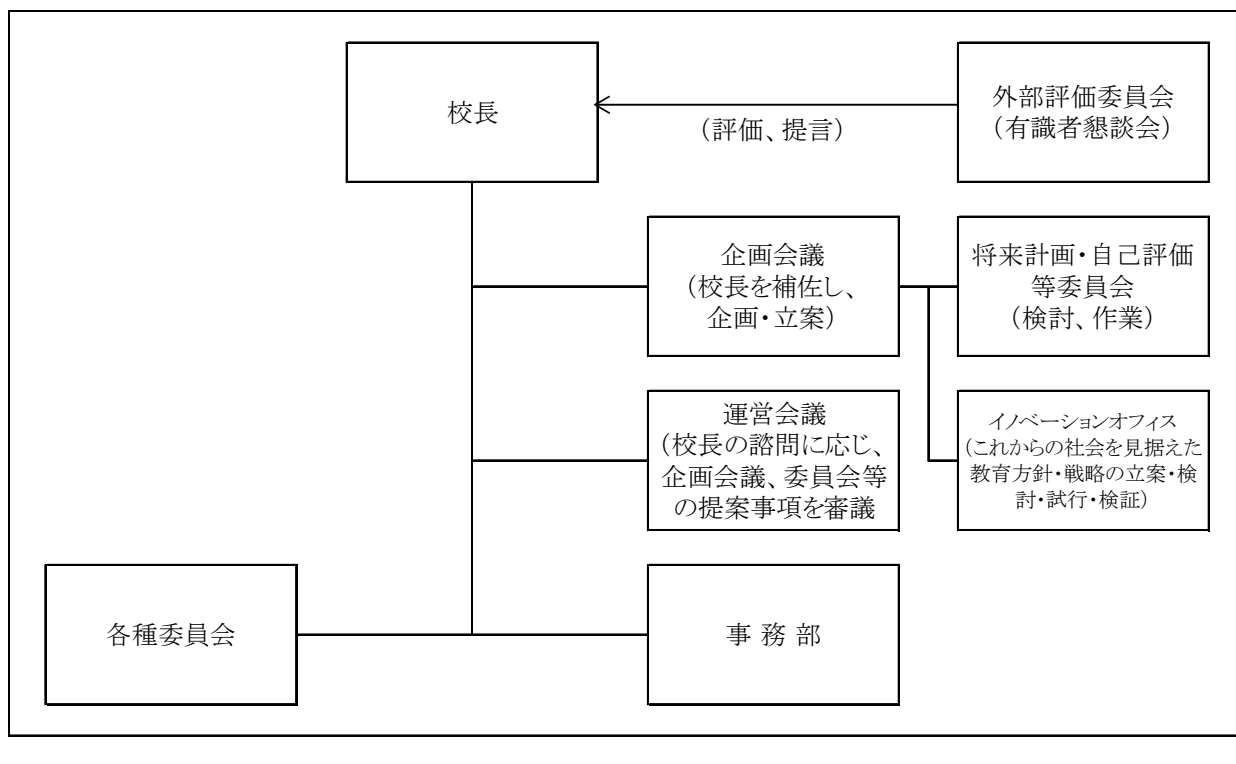
5 自己点検・評価結果に基づく改善

本校は、イノベーションオフィスが中心となって、内部質保証システム（自己点検・評価の結果を自己改善に繋げるためのシステム）としてPDC Aサイクルを運用し、本校の活動の改善を継続的に推進するものとする。

6 三つのポリシーの点検

本校は、教務委員会が、毎年度、社会の状況等の変化に応じて、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の内容を点検し、必要に応じて見直すものとする。

実施体制図



出典「明石工業高等専門学校における自己点検・評価の実施方針」

資料 1-1-①-2

「自己点検・評価の実施体制が分かる規程」

将来計画・自己点検等委員会規程

(趣旨)

第1条 中期計画等の策定並びに自己点検及び自己評価（以下「自己点検等」という。）を行うため、将来計画・自己点検等委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副校長（総務担当）、副校長（教育改革担当）
- (2) 教務主事、学生主事、寮務主事
- (3) 専攻科長
- (4) イノベーションオフィス長
- (5) 事務部長
- (6) 各課長
- (7) その他校長が指名する者

(所掌事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 中期計画等の策定に関する事。
- (2) 自己点検等の項目・実施に関する事。
- (3) 自己点検等の結果の活用の方策に関する事。
- (4) 教員の教育業績等の評価に関する事。
- (5) その他中期計画等の策定及び自己点検等の実施に関して必要な事項

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、副校長（総務担当）をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長が指名する委員が、その職務を代行する。

(意見の聴取)

第5条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。

(作業部会)

第6条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。

- 2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。

(事務)

第7条 委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成4年11月4日から施行する。

(以下省略)

出典「明石工業高等専門学校将来計画・自己点検等委員会規程」

資料 1-1-①-3

「自己点検・評価の項目を決めた委員会議事要録」

令和 3 年度第 1 回 将来計画・自己点検等委員会 議事要録

日 時	令和 3 年 4 月 30 日（金） 15 時 35 分～16 時 10 分
場 所	校長室
出席者	委員長：江口忠臣副校長（総務担当） 委員： 森下智博教務主事、穉本浩美学生主事、平石年弘寮務主事、 中西寛専攻科長、梶村好宏イノベーションオフィス長、 稲垣幸三事務部長、鶴野晃弘総務課長、丸尾博司学生課長 陪席： 山口総務課課長補佐（総務・人事担当）

〔議 事〕

議事に先立ち、将来計画・自己点検等委員会規則を確認した。

1. 令和 2 年度年度計画の実績報告について

委員長から資料 1 に基づき、令和 2 年度年度計画の実績報告について、各委員の所掌事項について担当事務を通して集約したものと説明があった。総務課課長補佐から、「課題」欄の赤字は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったことや課題となったことであるとの補足説明があった。

続いて総務課課長補佐から、高専機構本部への提出締切の関係上、修正等意見がある場合は 5 月 6 日（木）までに連絡するよう依頼があり、その結果により必要に応じて再度委員各位に確認し高専機構本部へ提出すること、運営会議では報告事項とするとのスケジュールの連絡があり、了承された。

2. 令和 3 年度年度計画の策定について

委員長から資料 2 に基づき、令和 3 年度年度計画の策定について、議題 1 と同様の手順とする説明があり、了承された。

3. 自己点検・評価報告書の作成について

委員長から資料 3 に基づき、本校独自に行う自己点検・評価の実施方針について説明があり、令和 3 年度が取りまとめ時期となっていることを確認した。実施体制として、資料 4 の平成 30 年度認証評価と同様の体制を改めて作業部会として組織し、当委員会委員及び運営会議メンバーを中心に委員長が人選することを了承した。評価基準は認証評価の基準と同様とし、平成 30 年度の認証評価結果により課題を指摘されている事項については、必ず現在の状況を点検する必要があるとした。

なお、成績評価のシステムについて、事務部で管理運用が説明できる状況にしておくよう委員長から依頼があり、また、その点検状況についても明示できるよう求められた。

出典「令和 3 年度第 1 回将来計画・自己点検等委員会議事要録」

資料 1-1-②-1

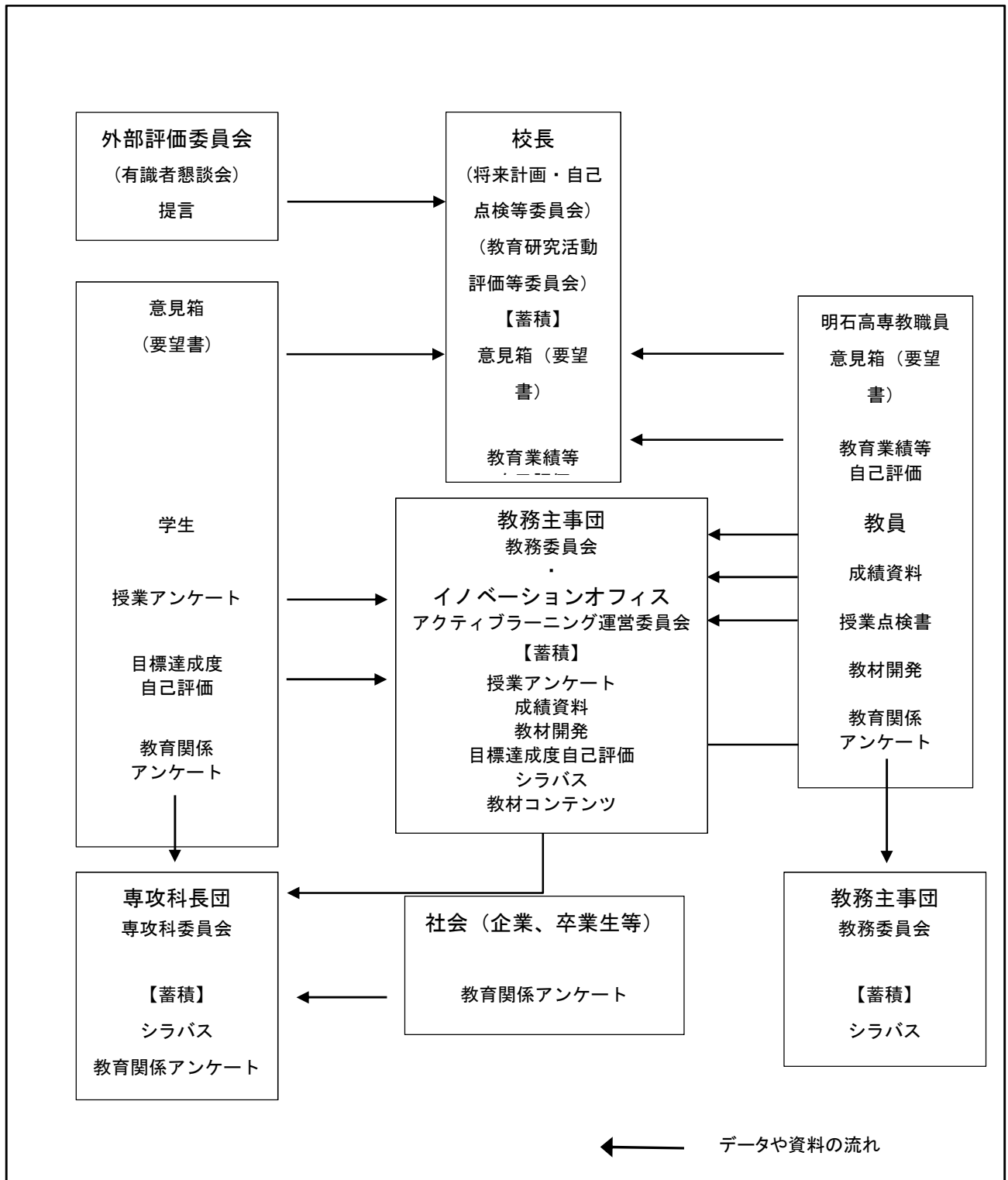
「根拠となるデータや資料の収集・蓄積状況がわかる資料」

データ、資料名	平成 30 年 度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	備考
授業アンケート (1~3 年)	◎	◎	◎	◎	オンライン
授業アンケート (4,5 年)	◎	◎	◎	◎	オンライン
授業アンケート (専攻科)	◎	◎	◎	◎	オンライン
成績資料 (1~3 年)	◎	◎	◎	◎	
成績資料 (4,5 年、専攻科)	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (1~3 年)	◎	◎	◎	◎	
授業点検書 (4,5 年、専攻科)	◎	◎	◎	◎	
教育業績自己申告書	◎	◎	◎	◎	R3 年度からオン ライン
学生の「学習教育目標達 成度自己評価」	◎	◎	◎	◎	R2 年度からオン ライン
卒業時アンケート	◎	◎	◎	◎	R2 年度からオン ライン
修了時アンケート	◎	◎	◎	◎	R2 年度からオン ライン
進路先へのアンケート	—	—	—	◎	

出典「アンケート結果等から作成」

資料 1-1-②-2

資料名「データや資料の収集・蓄積の担当組織、責任体制がわかる資料」



出典「自己点検・評価報告書（平成 29 年 3 月）を一部修正」

資料 1-1-③-1

「授業点検書の例」

授業点検書				
授業科目名	建築設計演習 I A		演習	
対象学科・専攻名・対象学年	1A		前期	
担当者名	荘所 直哉 東野 アドリアナ			
記入者名	東野 アドリアナ	記入日	30-8-2021	
以下の質問にお答え下さい。				
1. 学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来ましたか？				はい
2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか？				はい
3. 授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できましたか？				はい
4. 適切な教材を用いていますか？				はい
5. 学生の授業中の反応をチェックしていますか？				はい
6. レポートや小試験を実施していますか？				はい
7. 成績評価はシラバスどおり行いましたか？				はい
8. 試験問題や演習課題の内容は適切でしたか？				はい
9. 模範解答や評価基準を提示しましたか？				はい
10. 成績評価の根拠となる資料（全答案・レポート等、模範解答・評価基準等）を残してありますか？				はい
11. 学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしていますか？				はい
「はい」の場合は具体的に記入してください。				
動画や映像教材を豊富に利用しています。				
12. 学生からのアンケート結果を授業に反映させていますか？				はい
「はい」の場合は具体的に記入してください。				
課題の締め切りの調整やメールやteamsで質問回答など				
13. 本授業科目の実施上で何か問題がありますか？				いいえ
「はい」の場合は具体的に記入してください。				
14. 試験・レポート課題等の回数及び学生への返却率をご記入下さい。				
定期試験	(回数	1 回)	返却率	100 %
事前学習	(回数	0 回)	返却率	0 %
事後展開学習 (レポート課題等)	(回数	15 回)	返却率	100 %
その他 (小テスト等)	(回数	0 回)	返却率	0 %
15. 授業時間外に行った学習指導についてご記入ください。				
指導した時間帯について			指導件数	30 件
オフィスアワー	<input type="radio"/>	追試・追実験	<input type="radio"/>	補習・補講
その他の時間	<input type="radio"/>	課題、レポート指導	<input type="radio"/>	研究指導
		その他		
16. 授業の実施に当たり、改善による成果の事例がありましたらお書き下さい。				
点検結果について、お尋ねすることがあります。				

出典「令和3年度授業点検書」

資料 1-1-③-2

「授業アンケートの例」

科目名 1A サイエンス I

平均値	5 の人数	4 の人数	3 の人数	2 の人数	1 の人数
3.79	7	12	7	3	0

(自由記述)

とにかく講義中の先生の小話が面白いです。物理は難しい公式がたくさんあって暗記するのが大変だと思っていたけど、先生が必要な公式を絞ってくださり、そこからは例え話で広げていくというやり方のおかげで問題も比較的簡単に楽しく解けるようになりました。先生のノリとツッコミと例え話は理解しやすい上にとっても面白くて個人的にはものすごく気に入ってます。

(担当教員からのコメント)

コメントありがとう。授業は楽しいことが第一です。特に授業後半の模擬授業を楽しくするには皆さんの協力が欠かせません。予習を中心に取り組みましょう。

出典「令和3年度前期授業アンケート 抜粋」

資料 1 - 1 - ③ - 3

「教育目的と学習・教育目標に関する意識調査結果 (R2)」

27意識調査全体集計

学年別集計結果

学年	教育目的の周知度	学習・教育目標の周知度	教育目的のカリキュラムへの反映度				学習・教育目標の重要度								1週間当りの平均的 自己学習 時間
			健康な心 身と豊か な人間性	柔軟な問 題解決能 力	実践的な 技術力	国際性と 指導力	A 豊かな人 間性と健 康な心身	B 国際性と 指導力	C 技術者倫 理	D 基礎学力 と自主的・ 継続的学 習能力	E コミュニ ケーション 能力	F 柔軟かつ 創造的な 設計能力	G 実践的な 問題解決 能力	H 多角的な システム 思考	
1	3.20	3.09	3.75	4.07	4.36	3.98	4.40	4.31	4.42	4.43	4.43	4.58	4.65	4.42	3.38
2	3.32	3.26	3.80	3.92	4.22	3.75	4.26	4.21	4.33	4.42	4.49	4.39	4.43	4.28	3.41
3	3.44	3.33	3.66	3.68	3.97	3.53	4.09	3.93	4.20	4.30	4.25	4.31	4.39	4.19	3.51
4	3.64	3.61	3.86	3.99	4.13	3.80	4.40	4.21	4.40	4.46	4.50	4.46	4.51	4.39	3.77
5	3.69	3.66	4.08	4.11	4.13	4.04	4.41	4.26	4.55	4.56	4.71	4.61	4.62	4.40	3.01
専攻科1	3.44	3.11	3.67	3.78	3.67	3.67	3.78	4.11	4.00	4.11	4.00	4.11	4.22	4.00	4.00
専攻科2	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00

* 5段階評価の平均値

* 周知度の評価段階	* カリキュラムへの反映度の評価段階	* 重要度の評価段階	* 自己学習時間の評価段階
5 よく理解している	5 反映されている	5 重要である	5 10時間以上
4 大体知っている	4 ある程度反映されている	4 どちらかといえば重要である	4 5~10時間
3 説明を受けたことがある	3 どちらともいえない	3 どちらともいえない	3 3~5時間
2 見たことがある	2 あまり反映されていない	2 どちらかといえば重要でない	2 1~3時間
1 全く知らない	1 反映されていない	1 重要でない	1 1時間未満

出典「令和2年度 教育目的と学習・教育目標に関する意識調査結果」

資料 1-1-③-4

「卒業時アンケート調査集計結果 (R2 年度)」

令和2年度卒業生卒業時アンケート調査集計結果 (教員会資料)
2021.3.23

設問1	H28	H29	H30	R1	R1
あなたの性別について、該当するものを次から一つお選びください。					
1 男	77%	83%			
2 女	21%	17%			

設問2	H28	H29	H30	R1	R1
卒業後の進路について、該当するものを次の中から一つお選びください。					
1 就職	25%	32%	36%	33%	35%
2 進学 (専攻科)	20%	12%	11%	13%	12%
3 進学 (大学)	54%	51%	51%	50%	50%
4 進学 (専門学校等)	1%	0%	1%	1%	0%
5 その他	1%	4%	5%	5%	3%
7 無回答			1%	0%	0%

設問3	H28	H29	H30	R1	R2
就職される方にうかがいます。あなたが就職することを決めた理由について、該当するものを次の中からお選びください。(二つまで回答可)					
1 経財的に自立したかったら	33%	30%	41%	39%	46%
2 高専で十分な専門的知識を得られたから	0%	6%	6%	6%	11%
3 進学するよりも高専卒の方がよい就職先があるから	55%	28%	52%	43%	40%
4 進学するには成績が十分でなかったから	25%	19%	19%	10%	20%
5 勉強するよりも実際の仕事に関心があったから	35%	51%	33%	47%	44%
6 進学を考えたが就職して資格を取ることで同等と考えたから	5%	4%	2%	10%	4%
7 その他	10%	4%	2%	6%	4%

設問4	H28	H29	H30	R1	R2
進学される方にうかがいます。あなたが進学することを決めた理由について、該当するものを次の中からお選びください。(二つまで回答可)					
1 入学時から進学を決めていたから	26%	25%	34%	32%	43%
2 進学してさらに専門的知識を深めたかったら	41%	43%	43%	51%	48%
3 進学した方が高専卒よりよい就職先があると考えたから	14%	21%	9%	20%	27%
4 進学するのにふさわしい能力が自身に備わっていると考えたから	4%	4%	4%	5%	7%
5 就職して実際の仕事に就くことがまだ早いと考えたから	37%	33%	34%	36%	19%
6 就職を考えたが第一希望のところに決まらなかったから	0%	2%	0%	1%	1%
7 博士や修士の学位取得を目標にしていたから	7%	9%	9%	7%	3%
8 自分の回りの学生の多くが進学を希望していたから	2%	2%	3%	2%	5%
9 保護者や教員等に進学をつよく奨められたから	5%	3%	3%	9%	8%
10 学歴として高専卒で十分でないと考えたから	20%	17%	19%	11%	15%
11 その他	3%	3%	5%	4%	2%

設問5	H28	H29	H30	R1	R2
明石高専における教育に関して、あなた自身が特に身に付いたと考えているものを次の中からお選びください。(五つまで回答可)					
1 専門科目の基礎力	69%	65%	65%	63%	71%
2 対人交渉力	10%	9%	12%	18%	21%
3 プレゼンテーション力	28%	29%	26%	40%	33%
4 コミュニケーション力	16%	23%	16%	28%	31%
5 創造力	14%	14%	14%	14%	15%
6 実践力	17%	21%	25%	20%	26%
7 協調性	10%	18%	18%	26%	23%
8 技術者倫理	15%	18%	15%	8%	18%
9 専門科目の応用力	9%	10%	18%	7%	8%
10 専門科目の基本技術	40%	32%	42%	34%	35%
11 人文社会系の一般教養	1%	1%	0%	5%	2%
12 自然科学系の一般教養	5%	5%	7%	9%	7%
13 英語力	12%	10%	12%	11%	13%
14 論理的思考力	18%	18%	26%	23%	26%
15 問題認識力	15%	17%	15%	11%	18%
16 問題解決力	16%	14%	14%	21%	18%
17 その他	1%	0%	0%	1%	1%

以下、省略する。

出典「令和3年度第2回教員会資料 (令和3年5月12日)」

資料 1-1-③-5

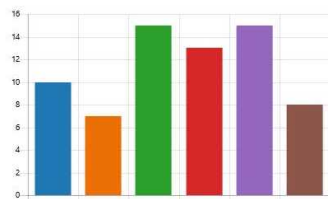
「就職・進学先関係者のアンケート結果集計表」

明石高専の教育目的、ディプロマポリシー及び学習・教育到達目標に関する企業アンケート

50 応答 14:03 完了するのにかかった平均時間 アクティブ 状態

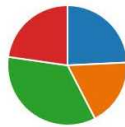
1. 本校卒業生の卒業年

- 平成28年3月卒業 (平成2... 10
- 平成29年3月卒業 (平成2... 7
- 平成30年3月卒業 (平成2... 15
- 平成31年3月卒業 (平成3... 13
- 令和2年3月卒業 (令和元年... 15
- その他 8



2. 本校卒業生の出身学科

- 機械工学科 16
- 電気情報工学科 12
- 都市システム工学科 23
- 建築学科 15



3. 明石高専卒業生が高専で身につけた次の素養（明石高専のディプロマポリシー）が、企業においてどれだけ反映されているかを5段階評価でお答えください。（平成27年度以前の卒業生につきましては、評価をお願いいたします）

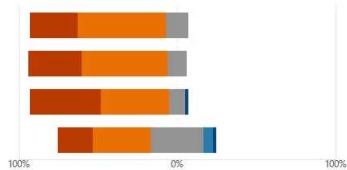
- 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。

専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任をもって主体的・能動的に行動できる。

多様化する社会を前向きに把握し、創造的に思考できる。

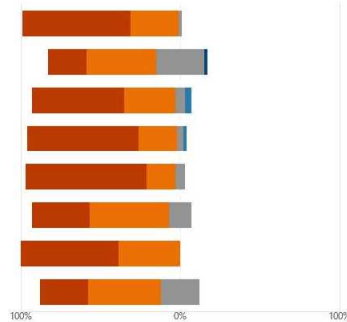


4. 企業のお立場から、次の8項目の明石高専の学習・教育到達目標の重要度を5段階評価でお答えください。

- 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

- (A) 共生に配慮できる豊かな人間性
- (B) 国際性と指導力
- (C) 技術者倫理
- (D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力
- (E) コミュニケーション能力

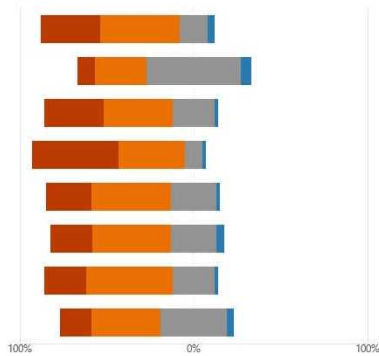
- (F) 柔軟かつ創造的な設計能力
- (G) 実践的な問題解決能力
- (H) 多角的なシステム思考



5. 明石高専卒業生について、次の8項目の明石高専の学習・教育到達目標の達成度を5段階評価でお答えください。

- 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

- (A) 共生に配慮できる豊かな人間性
- (B) 国際性と指導力
- (C) 技術者倫理
- (D) 基礎学力と自主的・継続的学習能力
- (E) コミュニケーション能力
- (F) 柔軟かつ創造的な設計能力
- (G) 実践的な問題解決能力
- (H) 多角的なシステム思考



出展「ディプロマ・ポリシー及び学習・教育到達目標に関するアンケート集計結果（令和3年度実施）」

資料 1 - 1 - ③ - 6

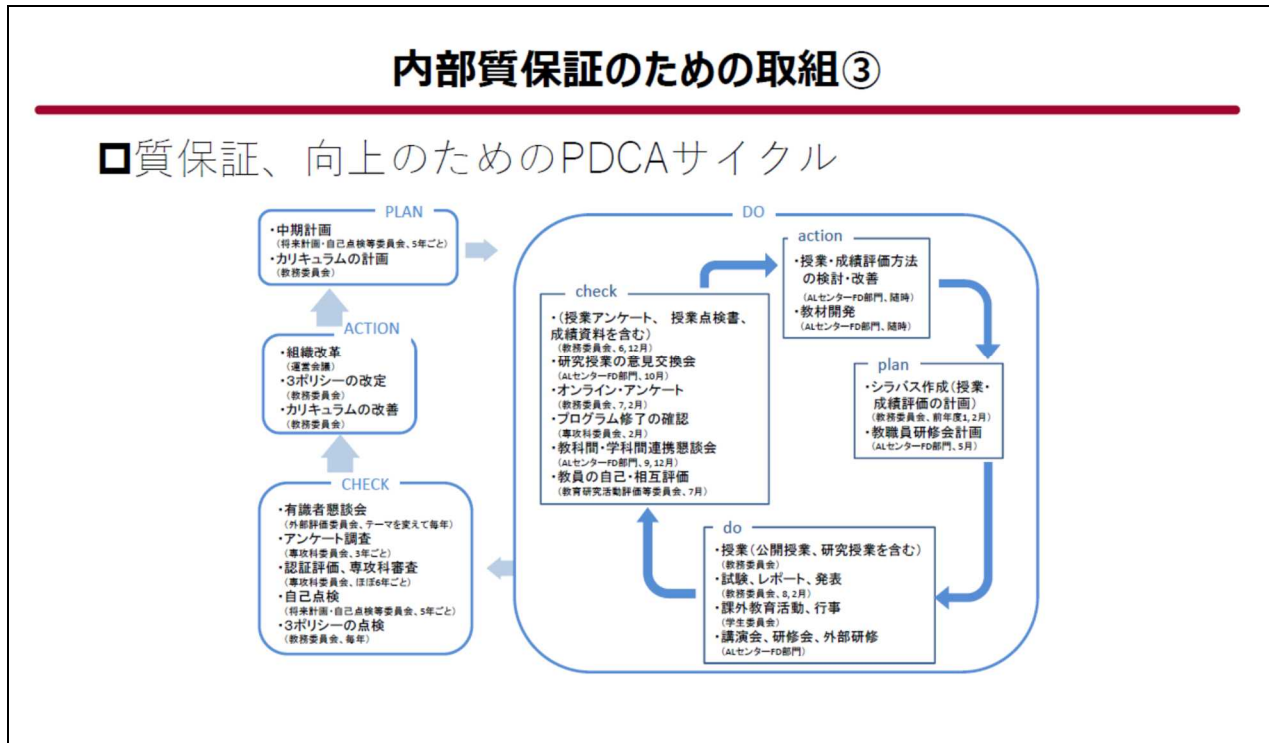
「有識者懇談会一覧」

明石工業高等専門学校 有識者懇談会実施一覧				
年度	実施日	テーマ	有識者氏名 (◎は議長を不す、敬称略)	所属・職名
16	H19.2.7	産学連携について	糸野 清明	神戸新聞社論説委員
			◎ 藤井 洋基	神戸大学工学部長
			小田 茂	兵庫工業会会長
			中島繁樹	明石市産業振興部長
			澤田 俊郎	明石工業高等専門学校同窓会会長
			長谷 和利	兵庫県中学校長会会長(明石市立大久保中学校長)
			深津 隆彦	日工株式会社常務取締役技術製造本部長
20	H20.10.8	産学連携について	山田 一成	兵庫県東播磨県民局長
			愛原 将士郎	NPO法人技術者集団ACT135明石理事長
			太田 泰雄	福井工業高等専門学校教授
			加藤 博敏	明石市産業振興部長
			◎ 出来 成人	神戸大学連携創造本部長
			深津 隆彦	日工株式会社代表取締役副社長
			山口 喜弘	兵庫工業会会長
21	H21.8.26	入学志願者の確保について	米澤 康義	兵庫県東播磨県民局地域振興部長
			◎ 井上 光輝	豊橋技術科学大学電気・電子工学系教授
			加藤 正文	神戸新聞社論説委員
			金田 孝行	明石工業高等専門学校後援会会長
			後藤 雅	加古川市立加古川中学校教諭
			柴田 尚志	茨城工業高等専門学校副校長
			田中 裕一	明石市立朝陽中学校教諭
22	H22.9.21	国際交流について	伊藤 実全	国際協力機構JICA兵庫所長
			穂木 利夫	明石市国際交流協会副会長
			藤 孟春	和歌山工業高等専門学校電気(情報工学)科教授
			◎ 中西 泰洋	神戸大学留学生センター長
			西田 裕	兵庫県国際交流協会副理事長
			松本 悠	熊本高等専門学校FBL・総合教育センター長
			◎ 池田 辰雄	兵庫工業会会長
23	H23.9.7	自己評価について	◎ 北村 新三	兵庫県立工業技術センター所長
			木村 光雄	兵庫県中学校長会会長(神戸市立渚中学校長)
			齊藤 正英	米子工業高等専門学校校長
			森本 政之	神戸大学大学院工学研究科建築学専攻教授
			◎ 池田 辰雄	兵庫工業会会長
			伊藤 文平	神戸市立工業高等専門学校校長
			◎ 井上 光輝	豊橋技術科学大学副学長
24	H25.1.29	これからの50年に向けた人材像について	澤田 俊郎	明石工業高等専門学校同窓会会長
			森川 豊文	兵庫県中学校長会会長(神戸市立西神中学校長)
			◎ 奥村 弘	神戸大学地域連携推進室長
			東元 良宏	兵庫県東播磨県民局長兼室長
			高橋 剛郎	明石市副市長
			冨田 康雄	高砂市副市長
			平岡 勝功	明石商工会議所会頭
25	H26.2.7	地域連携を活かした人材育成について	江角 清次	三菱重工株式会社高砂製作所所長代理
			◎ 笠井 秀明	大阪大学大学院工学研究科附属高度人材育成センター長
			藤本 晶	和歌山工業高等専門学校専攻科長
			佐野 正	新産業創造研究機構技術移転部門長
			藤山 慎吾	兵庫県中学校長会会長(神戸市立養父中学校長)
			和田 潤	明石市副市長
			◎ 藤田 清士	大阪大学大学院工学研究科国際交流推進センター長
26	H26.11.28	グローバル人材の育成と今後の展望	今井 貴弘	川崎重工業株式会社人事部採用課長
			小林 一木	株式会社ベネッセ・ソリューション高専事業部アセスメント開発ユニット長
			時任 隼平	関西学院大学高等教育推進センター専任講師
			◎ 藤田 一郎	神戸大学大学院工学研究科市工専攻 教授
			小西 敏敬	明石市総合安全対策局長
			小林 智生	神戸市東灘区まちづくり協議会会長
			荒木 俊光	公益社団法人兵庫工業会常務理事・事務局長
27	H28.1.27	明石高専における防災リテラシー教育について	◎ 田端 和彦	兵庫大学副学長
			三浦 一郎	姫路市立手続小学校教諭
			松本 登起	NPO法人シモンズ代表理事
			◎ 藤田 敏彦	広島経済大学経済学部教養教育部 教授
			若江 寛紀	株式会社キャリアリンク 代表取締役
			◎ 鈴木 寛	東京大学公共政策大学院 教授
			小村 俊平	OECD日本イノベーション教育ネットワーク 事務局長
28	H29.1.31	地域と連携できるPBLの場づくりに向けて【AP事業共催】	◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
29	H30.1.31	地域と連携できるPBLの場づくりに向けて【AP事業共催】	◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
30	H31.2.14	主体性を伸ばすPBLを基軸としたキャリアの改善に向けて【AP事業共催】	◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
元	R1.11.15	AP事業および教育改革の成果の総括とこれからのキャリアマネジメント【AP事業共催】	◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長
			◎ 藤田 敏彦	兵庫工業会常務理事・事務局長

出典「令和3年度第1回将来計画・自己点検等委員会（令和3年4月30日）資料」

資料 1-1-④-1

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（質保証、向上のための PDCA サイクル）」



出典「令和3年度有識者懇談会資料」

資料 1-1-④-2

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項）」（1/2）

アクティブラーニングセンター規則

（設置）

第 1 条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、課題解決型の能動的学修方法の開発及び実践のためアクティブラーニングセンター（以下、「センター」という。）を置く。

（業務）

第 2 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育方法の開発・実践
- (2) 教育資源の開発・共有
- (3) 教育環境の開発・運用
- (4) 教育効果の評価
- (5) 教員研修に関する事
- (6) 教育活動の点検・改善

（部門）

第 3 条 センターの業務を円滑に実施するため、次の部門を置く。

- (1) 教育方法・教育資源・教育環境開発部門
- (2) 教育効果評価部門
- (3) FD部門

2 教育方法・教育資源・教育環境開発部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育方法の開発及び実践に関する事。
- (2) 教育資源の開発及び共有に関する事。
- (3) 教育環境の開発・運用に関する事。

3 教育効果評価部門は、教育効果の評価に関する業務を行う。

4 FD部門は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教員研修に関する事。
- (2) 教育活動の点検・改善に関する事。

~~~~~（略）~~~~~

出典「明石工業高等専門学校規則集 アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項」

資料 1-1-④-2

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項）」(2/2)

FD部門要項

(趣旨)

第1条 アクティブラーニングセンター規則第3条第1項第3号に定めるFD部門の運用については、この要項によるものとする。

(業務内容)

第2条 センター規則第3条第4項第1号に定める業務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 教員研修の計画立案に関すること。
- (2) 教員研修の点検・改善に関すること。

2 センター規則第3条第4項第2号に定める業務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 授業アンケートに関すること。
- (2) 授業公開に関すること。
- (3) 教育に関する教科間・学科間の連携に関すること。
- (4) 成績資料の点検に関すること。
- (5) シラバスの点検とフィードバックに関すること。
- (6) 学生の目標達成度の点検とフィードバックに関すること。
- (7) その他教育の点検・改善に関すること。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「明石工業高等専門学校規則集 アクティブラーニングセンター規則、FD部門要項

資料 1-1-④-3

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（教務委員会規程）」

教務委員会規程

第 1 条 教育課程の編成及び教育計画の立案その他教務に関する事項について審議するため、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第 2 条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 教務主事団の構成員
- (2) 学生課長
- (3) その他委員長が必要と認めた者

第 3 条 前条第 3 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による後任委員の任期は前任者の残りの期間とする。

第 4 条 教務主事は委員長となり委員会を招集し、その議長となる。

第 5 条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

第 6 条 委員長が必要と認める場合は、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を述べさせることができる。

第 7 条 委員会の事務は、学生課において処理する。

~~~~~ (略) ~~~~~

出典「明石工業高等専門学校規則集 教務委員会規程」



資料 1 - 1 - ④ - 4

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（専攻科委員会規程）」

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">専攻科委員会規程</p> <p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）の専攻科に関することについて、審議するため専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 特別研究・特別実習等の発表や審査に関すること。</p> <p>(2) 学位審査に関すること。</p> <p>(3) 専攻科入学前の学習履歴の点検に関すること。</p> <p>(4) その他専攻科の運営に関すること。</p> <p>(組織)</p> <p>第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) 専攻科長団の構成員</p> <p>(2) 学生課長</p> <p>(3) その他委員長が必要と認めた者</p> <p>2 前項第 3 号に掲げる委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</p> <p>(委員長)</p> <p>第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。</p> <p>2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。</p> <p>(委員以外の者の出席)</p> <p>第 5 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。</p> <p>(専門委員会)</p> <p>第 6 条 委員会に専門的事項を審議するため必要がある場合は、専門委員会を置くことができる。</p> <p>2 専門委員会に必要な事項については、委員会が定める。</p> <p>(事務)</p> <p>第 7 条 委員会の事務は、学生課において処理する。</p> <p>~~~~~ (略) ~~~~~</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

出典「明石工業高等専門学校規則集 専攻科委員会規程」

資料 1-1-④-5

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（教育研究活動評価等委員会規程）」

| 教育研究活動評価等委員会規程                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 教員の教育活動及び研究活動の評価及びその運用に関する事項を検討するため、教育研究活動評価等委員会（以下「委員会」という。）を置く。</p> <p>(組織)</p> <p>第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 校長</li><li>(2) 副校長</li><li>(3) 教務主事、学生主事、寮務主事</li><li>(4) 専攻科長</li><li>(5) イノベーションオフィス長</li><li>(6) 事務部長</li><li>(7) 各課長</li><li>(8) その他校長が指名する者</li></ol> |
| <p>(委員長)</p> <p>第 3 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。</li><li>3 委員長に事故あるときは、校長の指名する委員がその職務を代行する。</li></ol> <p>(意見の聴取)</p> <p>第 4 条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。</p>                                                                                                       |
| <p>(作業部会)</p> <p>第 5 条 委員会は、必要があるときは、特定の事項について作業部会を設けることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>2 作業部会の組織及び運営に関し必要な事項は別に定める。</li></ol>                                                                                                                                                                                                   |
| <p>(事務)</p> <p>第 6 条 委員会の事務は、総務課において処理する。</p> <p>~~~~~ (略) ~~~~~</p>                                                                                                                                                                                                                                                                             |

出典「明石工業高等専門学校規則集 教育研究活動評価等委員会規程」

資料 1 - 1 - ④ - 6

「自己点検・評価の実施体制がわかる資料（外部評価実施要項）」

外部評価実施要項

（趣旨）

第1条 明石工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究及び管理運営の改善に資することを目的として学外の有識者による評価（以下「外部評価」という。）を実施することとし、これについて必要な事項を定めるものとする。

（外部評価委員会）

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項について、外部評価を実施するため、外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項
- (3) その他運営に関する重要事項

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者を委員として、若干名をもって組織する。

- (1) 教育研究分野に精通した大学又は高等専門学校の教育研究機関の教員等
- (2) 産業界の産業動向に精通した者
- (3) 本校の所在する地域の関係者で、教育に関し、広く、かつ、高い識見を有する者
- (4) その他高等専門学校に関し、広く、かつ、高い識見を有する者

（委嘱）

第4条 委員は、校長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は、外部評価の実施に必要な期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（委員長）

第6条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、校長が委嘱する。

（運営）

第7条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

（外部評価の実施方法）

第8条 外部評価は、資料による調査のほか、本校において実施する実状聴取及び実地調査等により行う。

（外部評価の実施結果）

第9条 委員会は、外部評価の実施結果について、外部評価報告書を作成し、公表するものとする。

（外部評価に対する改善）

第10条 本校は、外部評価報告書に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。

（事務）

第11条 外部評価の実施に関する事務は、総務課において処理する。

（実施細目）

第12条 この要項に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

~~~~~（略）~~~~~

出典「明石工業高等専門学校規則集 外部評価実施要項」

資料 1-1-④-7

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」(1/8)

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・推薦選抜：社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・学力選抜

高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

これらのことから、準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）（以下「三つの方針」という。）が学校の目的を踏まえておおむね定められていると判断する。

**評価の視点 1-3**

当校では、教務委員会が、学校の目的及び三つの方針について、毎年度、社会の状況等の変化に応じ、内容を点検し、必要に応じて見直しを行っている。

直近では平成 30 年に教育目的及び三つの方針について点検（見直し）を行っており、点検の結果、教育目的及び入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を修正している。

これらのことから、学校の目的及び三つの方針が、社会の状況等の変化に応じて適宜見直されていると判断する。

以上の内容を総合し、「基準 1 を満たしている。」と判断する。

**【優れた点】**

- 学校の総合的な状況について、根拠資料の収集や関係者からの意見聴取の結果をもとに、継続的に自己点検・評価を行いながら、その結果や外部評価等の結果をもとに、必要な改善を逐次行っており、内部質保証システムをいくつかの段階ごとに整備し、それを積み重ねることにより全体の内部質保証システムを構成しており、実際に機能している。

**【改善を要する点】**

- 準学士課程及び専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、求める学生像に加えて、そのような学生をどのように受入れるかに関する入学者選抜の基本方針が含まれていることが、ウェブサイトや学生募集要項等において適切に示されていない。



資料 1-1-④-7

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」(2/8)

指摘された事項への対応状況

HOME > 機械工学科 > 三つのポリシー

**機械工学科**

- > カリキュラム
- > 三つのポリシー
- > 学習・教育到達目標

**三つのポリシー**

**ディプロマ・ポリシー**

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

~~~~~ (略) ~~~~~

アドミッション・ポリシー (入学生)

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

- ・推薦選抜
中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。
- ・学力選抜
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。
- ・帰国子女特別選抜
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

アドミッション・ポリシー (編入学生)

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

出典「明石高専 Web サイト_機械工学科 > 三つのポリシー」

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」（3/8）

指摘された事項への対応状況

HOME > 電気情報工学科 > 三つのポリシー

電気情報工学科

- > カリキュラム
- > 三つのポリシー
- > 学習・教育到達目標

三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

~~~~~ (略) ~~~~~

**アドミッション・ポリシー（入学生）**

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

- ・推薦選抜  
中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。
- ・学力選抜  
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。
- ・帰国子女特別選抜  
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

**アドミッション・ポリシー（編入学生）**

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

出典「明石高専 Web サイト\_電気情報工学科>三つのポリシー」

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」（4/8）

指摘された事項への対応状況

独立行政法人国立高等専門学校機構  
明石工業高等専門学校  
NAISONA Institute of Technology (KOTEN) Aomori College

お問合わせ | アクセス | 教育・研究施設 | 教職員公募 | English | Google カスタム検索 Q

受験生の方 | 学生・保護者の方 | 地域・企業の方 | 卒業生の方

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携

# 都市システム工学科

都市で学ぼう！

HOME > 都市システム工学科 > 三つのポリシー

## 都市システム工学科

- > カリキュラム
- > 三つのポリシー
- > 学習・教育到達目標

### 三つのポリシー

#### ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するかを定める方針です。

~~~~~ (略) ~~~~~

アドミッション・ポリシー（入学生）

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人
選抜方針は以下のとおりです。
 - ・推薦選抜
中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。
 - ・学力選抜
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。
 - ・帰国子女特別選抜
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

アドミッション・ポリシー（編入学生）

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人
選抜方針は以下のとおりです。
工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

出典「明石高専 Web サイト_都市システム工学科>三つのポリシー」

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」（5/8）

指摘された事項への対応状況

HOME > 建築学科 > 三つのポリシー

建築学科

- > カリキュラム
- > 三つのポリシー
- > 学習・教育到達目標

三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

~~~~~ (略) ~~~~~

**アドミッション・ポリシー（入学生）**

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

- ・推薦選抜  
中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。
- ・学力選抜  
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。
- ・帰国子女特別選抜  
中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

**アドミッション・ポリシー（編入学生）**

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 数学および英語に関して工学教育を受けるための必要な学力を有する人
2. 専門的基礎学力に優れている人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

工業高等学校又は、高等学校の工業に関する学科を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学、英語、当該学科の専門科目が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

出典「明石高専 Web サイト\_建築学科 > 三つのポリシー」



「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」（6/8）

指摘された事項への対応状況

HOME > 専攻科 > 三つのポリシー

**専攻科**

- > カリキュラム
- > 三つのポリシー
- > 学篇・教育到達目標
- > 専攻科研究年報

**三つのポリシー**

**ディプロマ・ポリシー**

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に修了を認定するのかを定める方針です。

~~~~~ (略) ~~~~~

アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学を受け入れるかを定める方針です。自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外も学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

選抜方針は以下のとおりです。

- ・推薦選抜：学校長推薦
高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。
- ・推薦選抜：社会人特別推薦
高等専門学校を卒業し、企業等に在籍する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。
- ・学力選抜
高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

出典「明石高専 Web サイト_専攻科>三つのポリシー」

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」（7/8）

指摘された事項への対応状況

学 生 募 集 要 項

I アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人
3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜

中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。

・学力選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。

・帰国子女特別選抜

中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

※カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）はホームページに掲載していますので参照してください。

II 募 集 人 員

| 学 科 | 入 学 定 員 | 募 集 人 員 |
|-------------------|---------|---|
| 機 械 工 学 科 | 40 名 | 各学科とも推薦選抜、学力選抜それぞれ入学定員の 50%程度とします。
帰国子女特別選抜の募集人員は、各学科とも若干名とします。
※入学定員には、タイ政府奨学金留学生受け入れ事業により入学する若干名が含まれます。 |
| 電 気 情 報 工 学 科 | 40 名 | |
| 都 市 シ ス テ ム 工 学 科 | 40 名 | |
| 建 築 学 科 | 40 名 | |
| 計 | 160 名 | |

III 選 抜 の 方 法

入学者の選抜は、「推薦選抜」、「学力選抜」及び「帰国子女特別選抜」の三つの方法で行います。

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 1 教育の内部質保証システム）」(8/8)

指摘された事項への対応状況

学 生 募 集 要 項

I アドミッション・ポリシー

自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外にも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜：学校長推薦

高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・推薦選抜：社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・学力選抜

高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーはホームページに掲載していますので参照してください。

II 募 集 人 員

機械・電子システム工学専攻 8人

建築・都市システム工学専攻 8人

III 選 抜 の 方 法

入学者の選抜は、「推薦選抜」と「学力選抜」の二つの方法で行います。

IV 選 抜 の 日 程

入学者の選抜は、次のとおり行います。

| 選 抜 区 分 | 選 抜 期 日 | 選 抜 人 数 |
|---------|--------------|---------|
| 推 薦 選 抜 | 令和3年6月1日(火) | 8人程度 |
| 学 力 選 抜 | 令和3年9月27日(月) | 8人程度 |

出典「令和4年度専攻科学生募集要項」

資料 1-1-④-8

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 5 準学士課程の教育課程・教育方法）」（1/3）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

学則に修業年限を5年と定めている。

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準として明石工業高等専門学校学業成績の評価等に関する規程を定め、学生に明示している。

この基準に基づき卒業認定を行っている。

卒業認定基準に関する学生への認知状況を把握するため、オンラインアンケートを行い、学生に認知されていることを確認している。

これらのことから、準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定がおおむね適切に行われており、有効なものとなっていると判断する。

以上の内容を総合し、「基準5を満たしている。」と判断する。

**【優れた点】**

- 学生の設計能力や問題解決能力を養成するために、全学科に創造性教育科目を配置し、学科の専門性と学年に応じた指導を実施している。また、自立・協働・創造をテーマとして他学科・他学年の学生で構成されるチームで独自のテーマに協働してチャレンジする「Co+work」科目を全学科の2～4年次の必修科目として開設している。これらの創造性を育む教育方法の工夫の結果、学生の学術講演会や各種コンテストへの参加も盛んとなり、創造力を発揮して多くの成果を上げている。
- 学生の実践力を養成するために、「Co+work」科目に加え、関連専門分野の企業等における就業体験を通じて実践的技術者感覚を体得するインターンシップを実施している。これらの実施により、「Co+work」科目導入後の3年間で学生のコンピテンシー・スコアが向上していること、インターンシップの授業アンケートにおいて、その目標が学生に十分理解・達成されていること等、教育の効果が上がっている。

**【改善を要する点】**

- 一部の授業科目において複数年次にわたり同一の試験問題が出題されている、期末試験と再試験で同一の問題が出題されている、成績評価に用いたレポート・小テストの保管が不十分であるなど、成績評価の客観性・厳密性を学校として担保する取組は十分とはいえない。



資料 1-1-④-8

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 5 準学士課程の教育課程・教育方法）」(2/3)

指摘された事項への対応状況

| 授 業 点 検 書                                        |          |           |      | 記入要領            |     |
|--------------------------------------------------|----------|-----------|------|-----------------|-----|
| 授業科目名                                            |          | 未記入       |      | 「講義・演習・実験・実習・実技 |     |
| 対象学科・専攻名・対象学年                                    |          | 未記入       |      | 「通年・前期・後期」から選択  |     |
| 担当者名                                             |          |           |      |                 |     |
| 記入者名                                             |          | 記入日       |      |                 |     |
| 以下の質問にお答え下さい。                                    |          |           |      |                 |     |
| 1. 学生に本授業科目の学習・教育目標を十分理解させることが出来ましたか？            |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか？                        |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 3. 授業はシラバスの内容・順序どおりで実施できましたか？                    |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 4. 適切な教材を用いていますか？                                |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 5. 学生の授業中の反応をチェックしていますか？                         |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 6. レポートや小試験を実施していますか？                            |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 7. 成績評価はシラバスどおり行いましたか？                           |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 8. 試験問題や演習課題の内容は適切でしたか？                          |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 9. 模範解答や評価基準を提示しましたか？                            |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 10. 成績評価の根拠となる資料（全答案・レポート等、模範解答・評価基準等）を残してありますか？ |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 11. 学生の興味や理解度を高めるために何か工夫をしていますか？                 |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 「はい」の場合は具体的に記入してください。                            |          |           |      |                 |     |
|                                                  |          |           |      |                 |     |
| 11. 学生からのアンケート結果を授業に反映させていますか？                   |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 「はい」の場合は具体的に記入してください。                            |          |           |      |                 |     |
|                                                  |          |           |      |                 |     |
| 12. 学生からのアンケート結果を授業に反映させていますか？                   |          | 未記入       |      | 「はい・いいえ」から選択    |     |
| 「はい」の場合は具体的に記入してください。                            |          |           |      |                 |     |
|                                                  |          |           |      |                 |     |
| 13. 試験・レポート課題の回数及び学生への返却率をご記入下さい。                |          |           |      |                 |     |
| 定 期 試 験                                          | (回数 0 回) |           | 返却率  | 0 %             |     |
| 事前学習                                             | (回数 0 回) |           | 返却率  | 0 %             |     |
| 事後展開学習（レポート課題等）                                  | (回数 0 回) |           | 返却率  | 0 %             |     |
| その他（小テスト等）                                       | (回数 0 回) |           | 返却率  | 0 %             |     |
| 14. 授業時間外に行った学習指導についてご記入ください。                    |          |           |      |                 |     |
| 指導した時間帯について                                      |          |           | 指導件数 | 0 件             |     |
| オフィスアワー                                          | 未記入      | 追試・追実験    | 未記入  | 補習・補講           | 未記入 |
| その他の時間                                           | 未記入      | 課題、レポート指導 | 未記入  | 研究指導            | 未記入 |
|                                                  |          | その他       | 未記入  |                 |     |
| 15. 授業の実施に当たり、改善による成果の事例がありましたらお書き下さい。           |          |           |      |                 |     |
|                                                  |          |           |      |                 |     |

出典「令和 3 年度授業点検書」

「前回の機関別認証評価で指摘された事項への対応状況がわかる資料（基準 5 進学士課程の教育課程・教育方法）」(3/3)

指摘された事項への対応状況

| 成績評価根拠資料(成績資料)の電子化・保存・保管・チェック方法(2021年度版) |        |                     | アクティブラーニングセンター                                                                                                                                                                                                                 |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------|--------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時期                                       | 担当     | 項目                  | 内容                                                                                                                                                                                                                             | 期限                                                                         | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 前期開始時                                    | 教務担当   | 保存用フォルダの作成          | <p>一時保管用サーバ(SCRサーバ)内に成績資料を保存するフォルダおよび Office365SharePoint 上に作業完了確認シートを作成する。なお、フォルダ構成は以下の通りとする。</p> <p>作業完了確認シート<br/>Office365SharePoint (保存先は備考欄参照)</p>                                                                        | 5月中旬                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>自身の転送フォルダには、自分以外はアクセスできない。科目フォルダには全員がアクセス可能です。</li> <li>作業完了確認シート・電子化マニュアル等保存先<br/>→こちらをクリック</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 中間試験後(通年科目の前期期末試験を含む)                    | 科目担当教員 | 成績資料の電子化・保存         | <p>成績資料を電子化して、一時保管用サーバ(SCRサーバ)上の科目フォルダに保存する。</p> <p>・資料が紙媒体の場合</p> <p>(教員室 PC を用いて) 自動転送</p> <p>または</p> <p>手動転送・リネーム・PW 保護</p> <p>・資料が電子データの場合</p> <p>手動転送・リネーム・PW 保護</p>                                                      | 成績資料提出期限の1週間後の17:00                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科スキャナによる資料の電子化には、ID・パスワード(メールサーバと同じ)による認証が必要です。</li> <li>一時保管用サーバ(SCRサーバ)へのアクセスには、ID・パスワード(高専共通システムと同じ)による認証が必要です。</li> <li>総ファイルサイズは1GB以下。スキャナの読取解像度は300dpiを標準とします。</li> <li>リネーム時には、<br/>前期中間試験_問題.pdf<br/>前期中間試験_答案.pdf<br/>前期中間試験_評価基準.pdf<br/>前期期末試験_問題.pdf<br/>前期期末試験_答案.pdf<br/>前期期末試験_評価基準.pdf<br/>等、中身が分かるファイル名をお付け下さい。</li> <li>全ての電子ファイルについては、共通パスワードによる保護をお願いします。</li> <li>各自で電子ファイルのバックアップをお願いします。</li> </ul>   |
|                                          |        | 作業完了フラグのセット         | <p>成績資料の保存終了後、Office365SharePoint上の「作業完了確認シート」を開き、作業完了のフラグを立てる。</p>                                                                                                                                                            |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                          | 教務委員   | 成績資料の点検             | <p>一時保管用サーバ(SCRサーバ)内の成績資料を点検して、作業完了確認シートの点検結果欄に○または追加作業等を記入する。その後、点検期限後結果を公表し、追加作業が必要な場合は、当該科目担当教員へ依頼する。</p>                                                                                                                   | 成績資料の電子化・保存期限の1週間後の17:00                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一時保管用サーバへのアクセスには、ID・パスワード(高専共通システムと同じ)による認証が必要です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 時期                                       | 担当     | 内容                  | 手順                                                                                                                                                                                                                             | 期限                                                                         | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 期末試験後(通年科目の前期期末試験を除く)                    | 科目担当教員 | 成績資料の電子化・保存         | <p>【電子化する資料】成績資料を電子化して、一時保管用サーバ(SCRサーバ)上の科目フォルダに保存する。</p> <p>・資料が紙媒体の場合</p> <p>(教員室 PC を用いて) 自動転送</p> <p>または</p> <p>手動転送・リネーム・PW 保護</p> <p>・資料が電子データの場合</p> <p>手動転送・リネーム・PW 保護</p> <p>【電子化しない資料】保管庫等に資料の現物保管を行う。</p> <p>保管</p> | <p>前期期末:<br/>成績資料提出期限の1週間後の17:00</p> <p>後期期末:<br/>第2次指導連絡会議の1週間後の17:00</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科スキャナによる資料の電子化には、ID・パスワード(高専共通システムと同じ)による認証が必要です。</li> <li>一時保管用サーバ(SCRサーバ)へのアクセスには、ID・パスワード(高専共通システムと同じ)による認証が必要です。</li> <li>総ファイルサイズは1GB以下。スキャナの読取解像度は300dpiを標準とします。</li> <li>リネーム時には、<br/>前期期末試験_問題.pdf<br/>前期期末試験_答案.pdf<br/>前期期末試験_評価基準.pdf<br/>前期期末試験_問題.pdf<br/>前期期末試験_答案.pdf<br/>前期期末試験_評価基準.pdf<br/>等、中身が分かるファイル名をお付け下さい。</li> <li>全ての電子ファイルについては、共通パスワードによる保護をお願いします。</li> <li>各自で電子ファイルのバックアップをお願いします。</li> </ul> |
|                                          |        | 作業完了フラグのセット         | <p>成績根拠資料の保存終了後、Office365SharePoint上の作業完了確認シートを開き、作業完了のフラグを立てる。</p>                                                                                                                                                            |                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                          | 教務委員   | 成績資料の点検             | <p>一時保管用サーバ(SCRサーバ)内の成績資料を点検して、作業完了確認シートの点検結果欄に○または追加作業等を記入する。その後、点検期限後結果を公表し、追加作業が必要な場合は、当該科目担当教員へ依頼する。</p>                                                                                                                   | 成績資料の電子化・保存期限の1週間後の17:00                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一時保管用サーバ(SCRサーバ)へのアクセスには、ID・パスワード(高専共通システムと同じ)による認証が必要です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 定期試験後                                    | 教務担当   | 全資料の長期保管用サーバへの転送・保存 | <p>一時保管用サーバ(SCRサーバ)上の保存ファイルを圧縮・パスワード保護を行った上で、長期保管用サーバに転送・保存する。</p>                                                                                                                                                             | 年4回                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>教務担当以外は長期保管用サーバにアクセスできない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

出典「令和3年度成績評価根拠資料保管フロー図」

資料 1 - 1 - ④ - 9

「平成 28 年度自己点検・評価報告書」

The screenshot shows the website for Akashi College, a National Institute of Technology. The page is titled '学校案内' (School Overview). A red box highlights the '自己点検・評価報告書' (Self-inspection and Evaluation Report) section, specifically the '平成28年度 自己点検・評価報告書' (28th Year of Heisei Self-inspection and Evaluation Report). The report includes a table of contents with links to various sections such as '目的・目標' (Purpose and Goals), '教育体制と教員及び支援職員' (Education System and Faculty/Support Staff), and '学生の受け入れ' (Student Admission).

出典「明石高専 Web サイト\_学校案内>点検評価活動>平成 28 年度自己点検・評価報告書」



資料 1-1-④-10

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 1 章 目的・目標）」（32 / 3）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・ 育成する人材像について、検討が行われているが明確な人材像が示されていない。グローバル高専モデル校として、早急に育成すべき人材像を明示しディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシーを策定する必要がある。
- ・ 教育目的の周知状況を把握するためアンケートが近年実施されていない。アンケートを実施しその結果から問題点を分析し、今後の方針を見出すようにつとめる必要がある。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p. 25」

指摘された事項への改善の取組（カリキュラムポリシーの策定）

HOME > 学校案内 > 三つのポリシー

学校案内

- > 校長挨拶
- > 本校の使命と教育目的
- > 三つのポリシー
- > 高専の特色
- > 沿革
- > 学生歌・校章
- > 交通アクセス・キャンパスマップ
- > 教育・研究施設
- > 広報誌・パンフレット
- > 点検評価活動
- > 組織
- > 教育情報の公表
 - 教員の年齢構成・男女別構成
 - 入学者数・収容定数・在学者数
- > 高等教育の修学支援新制度

三つのポリシー

本校において、各学科、専攻ごとにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの三つの方針を定めています。詳しくは以下を参照下さい。

学科

- > 機械工学科
- > 電気情報工学科
- > 都市システム工学科
- > 建築学科

専攻科

- > 機械・電子システム工学専攻
- > 建築・都市システム工学専攻

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-1-④-10

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 1 章 目的・目標）」（2 / 3）

指摘された事項への改善の取組（教育目的の周知状況を把握するためのアンケートの実施）

平成 29 年度教育目的と学習・教育目標に関する意識調査の全体集計

平成 30 年度教育目的と学習・教育目標に関する意識調査の全体集計

| 学年 | 教育目的の周知度 | 学習・教育目標の周知度 | 教育目的のキャリアグラムへの反映度 | | | | 学習・教育目標の重要度 | | | | | 1週間当りの平均的学習時間 | | | |
|------|----------|-------------|-------------------|-----------|---------|---------|----------------|-----------|---------|--------------------|---------------|---------------|----------------|--------------|--------------|
| | | | 健康な心身と豊かな人間性 | 柔軟な問題解決能力 | 実践的な技術力 | 国際性と指導力 | A 豊かな人間性と健康な心身 | B 国際性と指導力 | C 技術者倫理 | D 基礎学力と自主的・継続的学習能力 | E コミュニケーション能力 | | F 柔軟かつ創造的な設計能力 | G 実践的な問題解決能力 | H 多角的なシステム思考 |
| 1 | 3.49 | 3.30 | 3.71 | 4.03 | 4.16 | 3.97 | 4.29 | 4.41 | 4.43 | 4.53 | 4.51 | 4.53 | 4.57 | 4.41 | 3.43 |
| 2 | 3.40 | 3.33 | 3.69 | 3.77 | 4.08 | 3.70 | 4.27 | 4.20 | 4.23 | 4.31 | 4.30 | 4.34 | 4.48 | 4.29 | 2.94 |
| 3 | 3.27 | 3.19 | 3.49 | 3.65 | 3.83 | 3.64 | 4.02 | 3.97 | 4.13 | 4.07 | 4.24 | 4.09 | 4.29 | 4.08 | 3.05 |
| 4 | 3.33 | 3.20 | 3.48 | 3.77 | 3.54 | 3.54 | 3.96 | 3.93 | 4.06 | 4.11 | 4.21 | 4.16 | 4.18 | 4.08 | 3.52 |
| 5 | 3.70 | 3.60 | 3.81 | 3.85 | 4.01 | 3.80 | 4.06 | 3.99 | 4.13 | 4.22 | 4.27 | 4.15 | 4.21 | 4.13 | 3.11 |
| 専攻科1 | 3.46 | 3.75 | 3.33 | 3.63 | 3.79 | 3.29 | 4.25 | 4.17 | 4.38 | 4.50 | 4.54 | 4.50 | 4.50 | 4.33 | 3.96 |
| 専攻科2 | 3.27 | 3.09 | 3.41 | 3.77 | 3.93 | 3.57 | 3.98 | 4.20 | 4.32 | 4.25 | 4.34 | 4.23 | 4.32 | 4.20 | 3.59 |

*5段階評価の平均値

* 自己学習時間の評価段階
5 10時間以上
4 5~10時間
3 3~5時間
2 1~3時間
1 1時間未満

* 重要度の評価段階
5 重要である
4 どちらかといえば重要である
3 どちらともいえない
2 どちらかといえば重要でない
1 重要でない

* カリキュラムへの反映度の評価段階
5 反映されている
4 ある程度反映されている
3 どちらともいえない
2 あまり反映されていない
1 反映されていない

* 周知度の評価段階
5 よく理解している
4 大体知っている
3 説明を受けたことがある
2 見たことがある
1 全く知らない

| 学年 | 教育目的の周知度 | 学習・教育目標の周知度 | 教育目的のキャリアグラムへの反映度 | | | | 学習・教育目標の重要度 | | | | | 1週間当りの平均的学習時間 | | | |
|------|----------|-------------|-------------------|-----------|---------|---------|----------------|-----------|---------|--------------------|---------------|---------------|----------------|--------------|--------------|
| | | | 健康な心身と豊かな人間性 | 柔軟な問題解決能力 | 実践的な技術力 | 国際性と指導力 | A 豊かな人間性と健康な心身 | B 国際性と指導力 | C 技術者倫理 | D 基礎学力と自主的・継続的学習能力 | E コミュニケーション能力 | | F 柔軟かつ創造的な設計能力 | G 実践的な問題解決能力 | H 多角的なシステム思考 |
| 1 | 3.14 | 3.09 | 3.47 | 3.61 | 3.93 | 3.65 | 4.20 | 4.30 | 4.38 | 4.37 | 4.35 | 4.43 | 4.37 | 4.22 | 4.94 |
| 2 | 3.34 | 3.20 | 3.55 | 3.76 | 3.97 | 3.77 | 4.10 | 4.04 | 4.19 | 4.14 | 4.23 | 4.23 | 4.28 | 4.10 | 5.07 |
| 3 | 3.58 | 3.46 | 3.63 | 3.74 | 3.91 | 3.72 | 4.12 | 4.05 | 4.11 | 4.12 | 4.21 | 4.28 | 4.19 | 4.23 | 4.83 |
| 4 | 3.33 | 3.28 | 3.64 | 3.68 | 3.70 | 3.73 | 4.02 | 3.86 | 4.07 | 4.11 | 4.23 | 4.14 | 4.22 | 4.09 | 5.83 |
| 5 | 3.40 | 3.27 | 3.45 | 3.76 | 4.04 | 3.71 | 4.08 | 4.01 | 4.29 | 4.17 | 4.31 | 4.18 | 4.35 | 4.21 | 4.92 |
| 専攻科1 | 3.00 | 3.50 | 3.50 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.50 | 4.50 | 4.00 | 4.50 | 5.00 | 4.00 | 3.00 |
| 専攻科2 | 4.00 | 4.11 | 3.67 | 3.56 | 3.78 | 3.22 | 4.44 | 4.67 | 4.22 | 4.56 | 4.78 | 4.56 | 4.78 | 4.33 | 6.50 |

*5段階評価の平均値

* 自己学習時間の評価段階
5 10時間以上
4 5~10時間
3 3~5時間
2 1~3時間
1 1時間未満

* 重要度の評価段階
5 重要である
4 どちらかといえば重要である
3 どちらともいえない
2 どちらかといえば重要でない
1 重要でない

* カリキュラムへの反映度の評価段階
5 反映されている
4 ある程度反映されている
3 どちらともいえない
2 あまり反映されていない
1 反映されていない

* 周知度の評価段階
5 よく理解している
4 大体知っている
3 説明を受けたことがある
2 見たことがある
1 全く知らない

出典「教育目的と学習・教育目標に関する意識調査結果（平成 29 年度、平成 30 年度）」

資料 1-1-④-10

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 1 章 目的・目標）」（3 / 3）

指摘された事項への改善の取組（教育目的の周知状況を把握するためのアンケートの実施）

令和元年度教育目的と学習・教育目標に関する意識調査の全体集計

令和 2 年度教育目的と学習・教育目標に関する意識調査の全体集計

学年別集計結果

| 学年 | 教育目的の周知度 | 学習・教育目標の周知度 | 教育目的のキャリアグラムへの反映度 | | | | | 学習・教育目標の重要度 | | | | | 1週間当りの平均的自己学習時間 | |
|------|----------|-------------|-------------------|-----------|---------|---------|------|-------------|------|------|------|------|-----------------|------|
| | | | 健康な心身と豊かな人間性 | 柔軟な問題解決能力 | 実践的な技術力 | 国際性と指導力 | A | B | C | D | E | F | | G |
| 1 | 3.23 | 3.03 | 3.61 | 3.94 | 4.26 | 3.92 | 4.42 | 4.45 | 4.43 | 4.58 | 4.57 | 4.62 | 4.29 | 5.68 |
| 2 | 3.37 | 3.18 | 3.47 | 3.73 | 4.07 | 3.70 | 4.21 | 4.19 | 4.30 | 4.35 | 4.40 | 4.43 | 4.28 | 5.37 |
| 3 | 3.44 | 3.41 | 3.62 | 3.85 | 3.97 | 3.76 | 4.20 | 4.05 | 4.27 | 4.25 | 4.29 | 4.32 | 4.18 | 5.22 |
| 4 | 3.78 | 3.70 | 3.94 | 4.10 | 4.21 | 3.91 | 4.48 | 4.38 | 4.30 | 4.57 | 4.49 | 4.61 | 4.44 | 6.91 |
| 5 | 3.11 | 3.12 | 3.43 | 3.60 | 3.61 | 3.41 | 4.08 | 3.87 | 4.12 | 4.14 | 4.20 | 4.23 | 4.06 | 5.03 |
| 専攻科1 | 3.63 | 3.75 | 3.75 | 4.13 | 4.13 | 4.00 | 4.50 | 4.63 | 4.63 | 4.75 | 4.38 | 4.75 | 4.38 | 7.06 |
| 専攻科2 | 3.25 | 3.50 | 4.00 | 3.75 | 3.50 | 3.25 | 4.50 | 4.75 | 4.75 | 4.50 | 4.50 | 4.50 | 4.25 | 5.00 |

*5段階評価の平均値

* 周知度の評価段階
 5 よく理解している
 4 大体知っている
 3 説明を受けたことがある
 2 見たことがある
 1 全く知らない

* カリキュラムへの反映度の評価段階
 5 反映されている
 4 ある程度反映されている
 3 どちらともいえない
 2 あまり反映されていない
 1 反映されていない

* 重要度の評価段階
 5 重要である
 4 どちらかといえば重要である
 3 どちらともいえない
 2 どちらかといえば重要でない
 1 重要でない

* 自己学習時間の評価段階
 5 10時間以上
 4 5～10時間
 3 3～5時間
 2 1～3時間
 1 1時間未満

学年別集計結果

| 学年 | 教育目的の周知度 | 学習・教育目標の周知度 | 教育目的のキャリアグラムへの反映度 | | | | | 学習・教育目標の重要度 | | | | | 1週間当りの平均的自己学習時間 | |
|------|----------|-------------|-------------------|-----------|---------|---------|------|-------------|------|------|------|------|-----------------|------|
| | | | 健康な心身と豊かな人間性 | 柔軟な問題解決能力 | 実践的な技術力 | 国際性と指導力 | A | B | C | D | E | F | | G |
| 1 | 3.20 | 3.09 | 3.75 | 4.07 | 4.36 | 3.98 | 4.40 | 4.31 | 4.42 | 4.43 | 4.58 | 4.65 | 4.42 | 3.38 |
| 2 | 3.32 | 3.26 | 3.80 | 3.92 | 4.22 | 3.75 | 4.26 | 4.21 | 4.33 | 4.42 | 4.39 | 4.43 | 4.28 | 3.41 |
| 3 | 3.44 | 3.33 | 3.66 | 3.68 | 3.97 | 3.53 | 4.09 | 3.93 | 4.20 | 4.30 | 4.25 | 4.31 | 4.19 | 3.51 |
| 4 | 3.64 | 3.61 | 3.86 | 3.99 | 4.13 | 3.80 | 4.40 | 4.21 | 4.40 | 4.46 | 4.50 | 4.51 | 4.39 | 3.77 |
| 5 | 3.69 | 3.66 | 4.08 | 4.11 | 4.13 | 4.04 | 4.41 | 4.26 | 4.55 | 4.56 | 4.71 | 4.61 | 4.40 | 3.01 |
| 専攻科1 | 3.44 | 3.11 | 3.67 | 3.78 | 3.67 | 3.67 | 3.78 | 4.11 | 4.00 | 4.11 | 4.11 | 4.22 | 4.00 | 4.00 |
| 専攻科2 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 4.00 |

*5段階評価の平均値

* 周知度の評価段階
 5 よく理解している
 4 大体知っている
 3 説明を受けたことがある
 2 見たことがある
 1 全く知らない

* カリキュラムへの反映度の評価段階
 5 反映されている
 4 ある程度反映されている
 3 どちらともいえない
 2 あまり反映されていない
 1 反映されていない

* 重要度の評価段階
 5 重要である
 4 どちらかといえば重要である
 3 どちらともいえない
 2 どちらかといえば重要でない
 1 重要でない

* 自己学習時間の評価段階
 5 10時間以上
 4 5～10時間
 3 3～5時間
 2 1～3時間
 1 1時間未満

出典「教育目的と学習・教育目標に関する意識調査結果（令和元年度、令和 2 年度）」

資料 1-1-④-11

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 2 章 教育体制と教員及び支援職員）」（1 / 4）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

（改善を要する点）

- ・ 事務職員及び技術職員数の削減、職員の産休や育休に対応するため、授業支援、業務支援、地域連携活動への支援等のサービスレベルを維持しつつ、更に円滑かつ効率的に実施するための支援体制に係る組織改編及び職員の再配置の検討が必要である。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p.34」



資料 1-1-④-11

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 2 章 教育体制と教員及び支援職員）」（2 / 4）

指摘された事項への改善の取組（事務部における係の統合について）

平成28年9月29日

事務部における係の統合について

1. 係の統合について

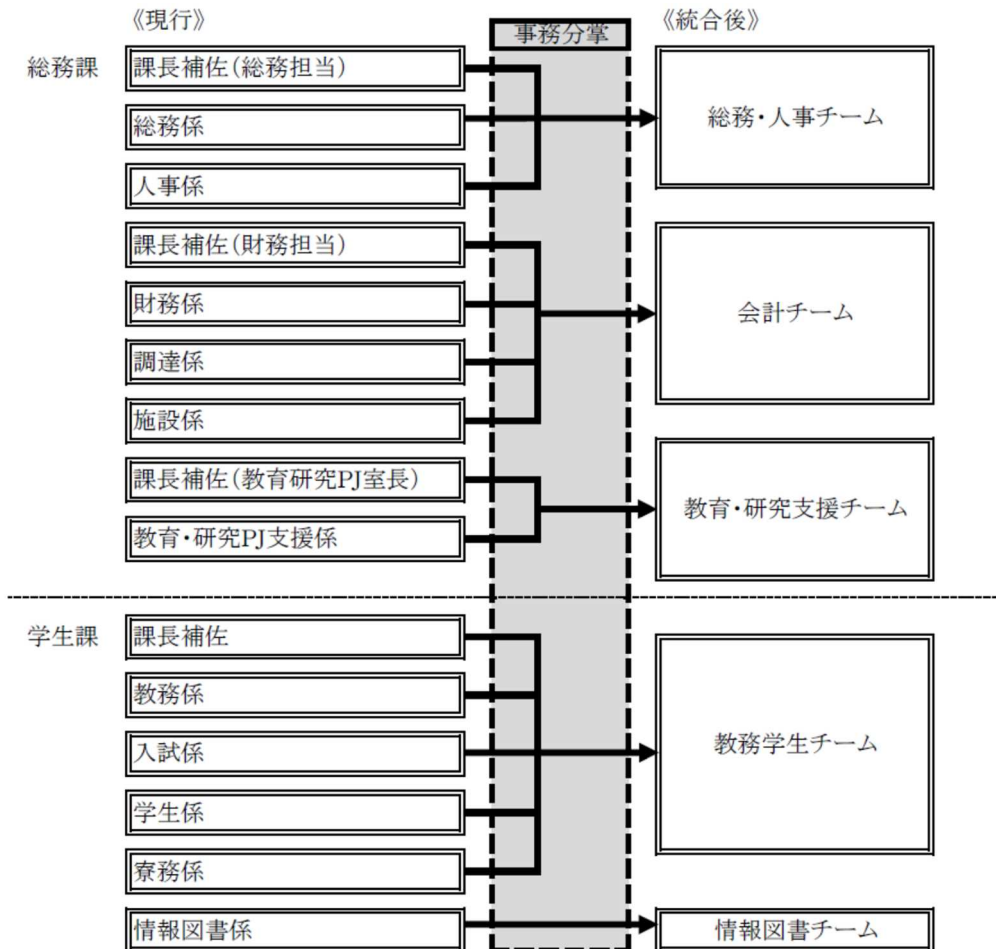
昨今、ワークライフバランスの重要性が叫ばれるようになり、本校においても、その取り組みの一環として係を統合するものである。

係を統合し、職員が幅広く業務に携われる機会を与えることにより仕事に対してやりがいを持ち、また、複数の職員が同一の業務に携わることが安易になることから、長時間労働を余儀なくされる現状の改善にも繋がると共に以下のメリットが考えられる。

- ①職員が安心して育児休業が取得できる環境が整えやすくなる。
- ②職員が安心して育児短時間労働及び育児部分休業が取得できる環境が整えやすくなる。
- ③状況に応じた業務分担の変更が容易となり、課題等に対してスピーディかつより柔軟に対応することが可能となる。
- ④職員が幅広く業務を担当できる環境となり、人材育成に有効となる。また、業務改善及び事務組織の機能強化にも繋がることを期待される。

2. 統合後の名称 チーム

3. 事務分掌

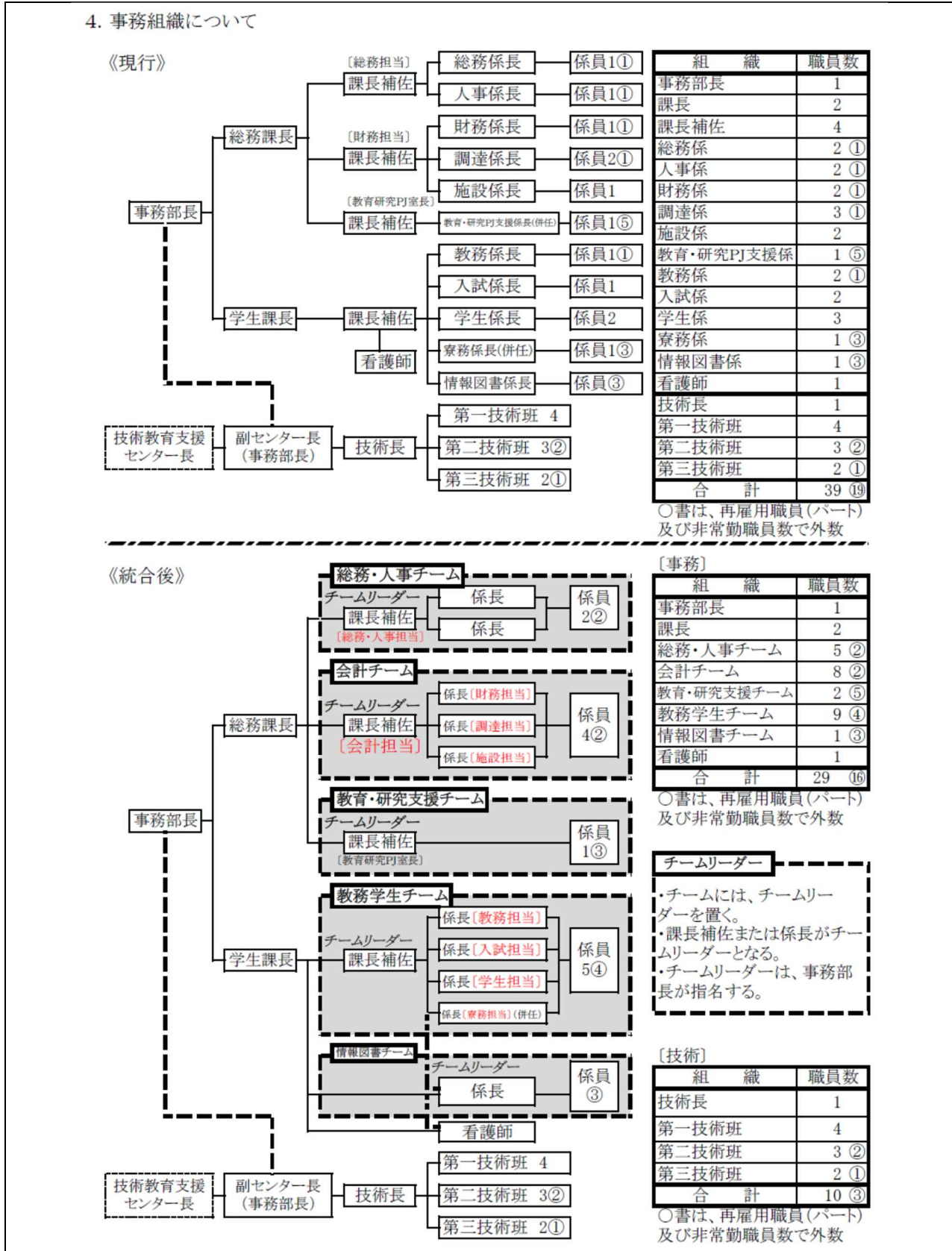


出典「平成 28 年度第 5 回運営会議資料」

資料 1-1-④-11

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 2 章 教育体制と教員及び支援職員）」（3 / 4）

指摘された事項への改善の取組（事務部における係の統合について）



出典「平成 28 年度第 5 回運営会議資料」

資料 1-1-④-11

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 2 章 教育体制と教員及び支援職員）」（4 / 4）

指摘された事項への改善の取組（事務部における系の統合について）

5. 職名等の区分及び職務内容について

| 区分   |       | 職務内容                                             |
|------|-------|--------------------------------------------------|
| 課長補佐 |       | チームを総括し、チームに係る重要な業務を処理する。また、上司の命を受け、その課の事務を処理する。 |
| 係長   |       | 上司の命を受けて、所掌事務を処理する。                              |
| 係員   | 主任    | 上司の命を受けて、チームの事務を処理する。                            |
|      | 一般職員  | 上司の命を受けて、総務、会計、教務等に関わる事務に従事する。                   |
|      | 事務補佐員 | 事務の補佐業務に従事する。                                    |

6. 事務分担

チームリーダーは事務分掌に基づき、事務分担表を作成し、分担表を課長に提出する。

7. 統合時期 平成28年10月1日

出典「平成 28 年度第 5 回運営会議資料」

資料 1 - 1 - ④ - 12

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 3 章 教育内容と方法）」（39 / 6）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・高専機構本部が進めているモデルコアカリキュラム、Web シラバス、ルーブリックによる達成度評価などを、効果的に運用できるように環境を整備していく必要がある。
- ・学生の自主的・能動的学習を進めるため、できるだけ多くの科目でアクティブラーニング手法を取り入れていくことが必要である。また、より効果的な教授法を活用できるように、継続的な授業改善を進めていくことが必要である。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p. 60」

指摘された事項への改善の取組 (H29 年度 FD 研修会の実施)

FD委員会 教員研修に関すること

平成29年度の取り組み

講演会「アクティブラーニング講演会(GI-net配信)」
 日時:平成30年1月11日(木)16:00~17:30
 内容:「トランジションをにらんでアクティブラーニング型授業への組織的転換」
 講師:溝上 慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター教授 教育アセスメント室長)

研修会「機関別認証評価に向けたFD」
 日時:平成29年12月7日(木)13:30~15:30
 内容:「トランジションをにらんでアクティブラーニング型授業への組織的転換」
 講師:認証評価部会副部会長・アクティブラーニングセンター長 梶村 好宏

研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)導入の考え方について」
 日時:平成29年11月22日(水)14:00~15:30→延期
 講師:教育研究調査室 併任教員 梶村 好宏

研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)、Webシラバスの導入に向けて」
 日時:平成29年8月30日(水)13:00~13:30
 内容:MCCの到達目標に対する各科目への対応(紐付け方法)について
 (Webシラバス上で各科目の到達目標にMCCの到達目標を紐付けていく作業の説明)

研修会「MCC(モデルコアカリキュラム)、Webシラバスの導入に向けて」
 日時:平成29年8月1日(火)13:30~15:30
 内容:・MCCとWebシラバスの関係
 ・Webシラバスを入力する

研修会「グローバルFD研修公開授業」(3機関連携事業)
 日時:平成29年6月1日(木)13:50~15:20
 内容:高専教員3名による英語での公開授業
 1. 13:50~14:20 「Introduction to Electronic Circuit」
 講師:飯田 民夫 氏(岐阜工業高等専門学校電気情報工学科准教授)
 2. 14:20~14:50 「Introduction to Energy Conversion Engineering」
 講師:樫根 健史 氏(鹿児島工業高等専門学校電気電子工学科准教授)
 3. 14:50~15:20 「PBL activity instruction and guidance」
 講師:加藤 文武 氏(茨城工業高等専門学校機械システム工学科准教授)

出典「明石高専イントラネット 【FD】 教員研修関係」

資料 1 - 1 - ④ - 12

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 3 章 教育内容と方法）」（2 / 6）

指摘された事項への改善の取組（H30 年度 FD 研修会（第 1～4 回）の実施）

| 回 | 時期 | 内容 |
|---------------|--------------|--|
| 第 1 回 | 前期中間試験
期間 | 「いじめの対策に関する研修」
平成 30 年 6 月 5 日 15 時～
学生相談室主催（FD 部門共催予定） |
| 第 2 回 | 前期中間試験
期間 | 「アクティブで深い学びのデザイン」研修 資料 9
平成 30 年 5 月 23 日（水）～
《日 程》 オンライン講座（全 6 週）
1 週目 5/23（水）開講 アクティブで深い学びとは
2 週目 5/30（水）開講 アクティブ・ラーニングに求められる教材
3 週目 6/6（水）開講 アクティブ・ラーニングと ICT 活用の接点
4 週目 6/13（水）開講 アクティブ・ラーニングのためのカリキュラム・マネジメント
5 週目 6/20（水）開講 教師自身のアクティブ・ラーニング
6 週目 6/27（水）開講 アクティブ・ラーニングの実践を持続的に発展させるために
対面授業 日時：7/29（日）13:00～16:00
<有料> 会場：東京大学 情報学環・福武ホール 福武ラーニングシアター
(AP 予算から 10 名程度まで支援) |
| 回 | 時期 | 内容 |
| 第 3 回
(終了) | 前期期末試験 | 「PBL(Project Based Learning)の授業への導入方法勉強会」
日時：8/2（木）4 限 14:40～16:10
場所：合併教室
プログラム：はじめに 大向
事例紹介
一般科目より 高田先生（G）15 分程度、質疑応答
専門科目より 濱田先生（E）15 分程度、質疑応答
ディスカッション
グループに分かれ、「PBL を自分の授業に取り入れる際の方法」について議論を行う。 |
| 第 4 回 | 夏休み期間 | 「PBL 授業のためのファシリテーション研修」
日時：8 月 27 日（月）9 時～17 時
場所：マルチメディア室
講師：中村文子 ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社代表取締役
*Co+work のようなプロジェクト型の学修を行う際のコーチング手法や、チームの学生へのかかわり方等を学んでいただけるよう、通常東京で開講されている研修（1 名 64,800 円）を明石高専向けに特化した内容にアレンジ。
現時点の申込者：堀、大向、平石、梶村、大塚、高田、工藤、荘所、竹岡、本塚、北川、柿本（計 12 名） |

出典「平成 30 年度 アクティブラーニングセンター運営会議（第 2 回，第 5 回）資料」

資料 1 - 1 - ④ - 12

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 3 章 教育内容と方法）」（3 / 6）

指摘された事項への改善の取組（H30 年度後 FD 研修会（第 1～4 回）の実施）

| 回 | 時期 | 内容 |
|-------|--------------|---|
| 第 5 回 | 12/6 4 限（終了） | 「卒業研究のルーブリックに関する FD」
平成 30 年 12 月 6 日（木）4 限（14:40～16:10）
参加者 28 名、M, E, C, A 各学科、議論した結果まとめ
M 科
E 科
C 科
A 科 |
| 第 6 回 | 12 月 | 「次年度以降の Co*work の改訂内容に関する説明会」（予定）
平成 30 年 12 月 18 日（火）16:20～17:00
場所 合併教室
(内容) 次年度以降の Co*work の改訂内容を共有し、質疑応答を行う。 |
| 第 7 回 | 1 月～2 月 | 「認証評価の結果に対するアクションの検討会」 |
| | | 開催日時：3 月 13 日（水） 16:00～17:00
場所：大会議室
内容
1 機関別認証評価結果の概要の共有
（優れている点、改善を要する点）
2 改善を要する点に対するアクション提案
3 総合討論 |
| 第 8 回 | 3 月 | 「質問力を活用したファシリテーション研修」
日時：3 月 26 日（火）13:30～16:00
場所：建築学科 マルチメディア室
内容：Co* work をはじめとする PBL 型の授業だけでなく、クラス経営及び各種会議等でも必要なファシリテーター能力の向上を目指す。本研修では、特にファシリテーションスキルの一つである質問力の活用に焦点をあてる。
1 近年のリーダーシップについて
2 質問力についての説明・ワーク
3 質問力を活用したファシリテーションの説明・ワーク

講師：株式会社 イノベスト 代表取締役社長 松岡 洋佑様

参加予定の教職員の方は 3/8 までにプロジェクト支援係に連絡
kk-project@akashi.ac.jp |

出典「平成 30 年度 アクティブラーニングセンター運営会議（第 8 回，第 11 回）資料」

資料 1 - 1 - ④ - 12

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 3 章 教育内容と方法）」（4 / 6）

指摘された事項への改善の取組（令和元年度 FD 研修会（第 1～5 回）の実施）

| 回 | 時期 | 内容 |
|---------------|---------------|---|
| 第 1 回
(終了) | 前期中間試験
後 | FD,SD 研修「タイ語入門教室」 終了
令和元年 6 月 6 日 (木) 4 限 (14:40～15:40) 合併教室
講師：久保田育美 先生
内容：
・タイ語で挨拶をしよう
・タイ語で自己紹介をしよう<-26 名参加、済 |
| 第 2 回
(終了) | 前期期末試験
期間中 | FD 研修「コーチング研修」 終了
令和元年 8 月 1 日 (木) 4 限 (14:40～16:40) 2 時間
場所：大会議室 参加者 17 名
講師 株式会社エンパワーリング 上村 光典 講師
研修内容
テーマ：自律型人間を育てるコーチング
1. コーチングとは何か？
2. 従来のアプローチとは何が違うのか？
3. コーチングが機能するためのマインドセットとは？ |
| 第 3 回
(終了) | 臨時 | イノベーションオフィス講演会 終了
日時：令和元年 8 月 2 日 (金) 15 時～17 時
場所：大会議室 参加者 9 名
講師：NTT アドバンステクノロジー株式会社
営業推進部 マーケティング部門
部門長 三宅 泰世 氏
研修内容：イノベーションを起こし続ける人材（学生）の育成とは |
| 第 4 回
(終了) | 前期期末試験
期間中 | FD 研修「Co'work 教員 8 人組意見交換会」 終了
日時：令和元年 8 月 5 日 (月) (14:40～16:00) (80 分)
場所：大会議室 参加者 21 名
内容：Co'work の前期を終えて、昨年度からの変更点について、良かった点、悪かった点を出し合って、全体共有を行う。それらを踏まえ、次年度に向けた議論、意見交換を実施する。
1. 外部との連携で悩んだこと、困ったこと
2. 学生への対応で悩んだこと、困ったこと
3. 成績評価について悩んだこと、困ったこと
4. チームを A, B に分けたことについて、良かった点、悪かった点
*加えて、冒頭に会場から意見交換したい内容を募集 |
| 第 5 回
(終了) | 夏休み期間中 | SD 研修「ハラスメント防止研修」 終了
日時：令和元年 9 月 18 日 (水) 10:00～12:00
場所：一般管理棟 3 階 合併教室 参加者 48 名
目的：平成 29 年度に実施したハラスメント研修に引き続き、教職員のハラスメントに対する理解を深め、各自がハラスメント防止の意識を高める。
講師：(株) インソース 重里恭子 氏 |

出典「令和元年度 アクティブラーニングセンター運営会議（第 11 回）資料」

資料 1-1-④-13

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 4 章 教育の成果及び改善システム）」（43 / 5）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・学習・教育目標のうち、「国際性と指導力」について専攻科修了生の達成度が不十分であるとの意見が、企業、大学院でそれぞれ 36%、18%あった。その結果を踏まえて、国際性については平成 27 年度、学科 1 年生に科目「グローバルスタディーズ I」を新設し、英語を自主的に学べる場所「グローバルエデュケーションオフィス（通称：グローバルテラス）」を設置するなどした。一方、指導力については学科・学年を横断して PBL とアクティブラーニングを実践する科目を平成 28 年度に導入する。それらの効果を客観的に公正に見極め、次のアクションを考えることが必要である。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p.107」

資料 1-1-④-13

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 4 章 教育の成果及び改善システム）」（2 / 5）

指摘された事項への改善の取組（AL 入門・Co+work に関するアンケート 分析結果）

令和 3 年 4 月 14 日 教員会

アクティブラーニングセンター連絡報告事項

~~~~~（略）~~~~~

AL 入門・Co+work に関するアンケート 分析結果

対象：卒業生（5 年生）

回答数：93（M 科：13 E 科：26 C 科：26 A 科：28）

アンケート内容：

アクティブラーニング入門について

- 1) AL 入門の印象（5 段階で評価）
- 2) 1 を選んだ理由を教えてください。また印象に残っている内容があれば書いてください
- 3) AL 入門を受講して身についたと思うこと（各項目を 5 段階で評価）
コミュニケーション能力 発言力 聞く力 話し合いの技術 課題発見能力
プレゼン能力
- 4) AL 入門は Co+work を進める上で役に立ったと思いますか？（5 段階で評価）
- 5) AL 入門を受講して思うこと（各項目を 5 段階で評価）
中学までとは異なる高専の授業だと思った 他学科と交流ができて良かった
クラスメイトと仲良くなるきっかけとなった 生徒から学生へと意識が変わった
- 6) Co+work を受講する前に AL 入門で学びたかったことがあれば書いてください
- 7) その他（AL 入門をふりかえて思うこと、意見・感想などを自由に書いてください）

Co+work について

- 1) Co+work を受講してどうでしたか？（各項目を 5 段階で評価）
2 年生のとき 4 年生のとき 4 年生のとき 今振り返って
- 2) 1 の理由を教えてください
- 3) Co+work を受講して身についたと思うこと（各項目を 5 段階で評価）
時間（スケジュール）管理能力 必要に応じた報告・連絡・相談 コミュニケーション力
リーダーシップ力 自主性 話し合いの技術 メモをとる技術 情報収集能力
企画・アイデア力
- 4) Co+work の授業について（各項目を 5 段階で評価）
Co+work を受講できて良かった Co+work での経験は社会に出た時に役立つと思う
担当教員の指導は適切だった 最終評価は納得がいくものだった（全体を通じて）
学年が上がるごとに責任感が増した 他学科他学年と交流できてよかった
8 人チームの方が 4 人チームより良かった 地域との関わりをもっと増やしたい
- 5) 担当教員に期待すること（こういう助言は良かった、こういう対応が欲しかった、など）
- 6) その他（Co+work をふりかえて思うこと、意見・感想などを自由に書いてください）

出典「令和 3 年度第 1 回教員会資料」

資料 1-1-④-13

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 4 章 教育の成果及び改善システム）」（3 / 5）

指摘された事項への改善の取組（AL 入門・Co+work に関するアンケート 分析結果）

アンケート結果：

5 段階評価では、

- 1・2：低評価（そう思わない、不満）
- 3：中評価（どちらとも言えない、ふつう）
- 4・5：高評価（そう思う、満足）

として、全学科まとめて集計した。※四捨五入の関係で、評価の割合の総和が 100%になっていない項目がある。

アクティブラーニング入門について

1) 低：52% 中：25% 高：24%

2) 「覚えていない」という回答が多かった。

AL 入門は 1 年生の講義であり、アンケート時期の問題であると思われる。

3) 「聞く力」、「話し合いの技術」が身についたという回答が多かった。

特に、「協同」に関する能力を身につけることができたと思われる。

| | | | |
|--------------|-------|-------|-------|
| ・コミュニケーション能力 | 低：28% | 中：46% | 高：26% |
| ・発言力 | 低：30% | 中：46% | 高：24% |
| ・聞く力 | 低：25% | 中：40% | 高：35% |
| ・話し合いの技術 | 低：25% | 中：38% | 高：38% |
| ・課題発見能力 | 低：31% | 中：42% | 高：27% |
| ・プレゼン能力 | 低：39% | 中：43% | 高：18% |

4) 低：30% 中：40% 高：30%

5) 「生徒から学生へと意識が変わった」こと以外は、高評価の回答が多かった。

| | | | |
|-----------------------|-------|-------|-------|
| ・中学までとは異なる高専の授業だと思った | 低：11% | 中：25% | 高：65% |
| ・他学科と交流ができて良かった | 低：24% | 中：33% | 高：43% |
| ・クラスメイトと仲良くなるきっかけとなった | 低：26% | 中：35% | 高：39% |
| ・生徒から学生へと意識が変わった | 低：51% | 中：31% | 高：18% |

6) 「特になし」という回答が多かった。学びたかったことがある場合の回答もバラバラだった。

7) 有意な回答は以下の 3 つのみだった。

- ・看板ばかり立派で、中身がスカスカに感じた。
- ・クラスのみならず仲良くなれるきっかけになりました。
- ・先生が面白かった

Co+work について

1) 高学年になるにしたがって、高評価の回答が多くなった。

Co+work は 3 年間の講義として意義があると思われる。

| | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| ・2 年生の時 | 低：32% | 中：32% | 高：35% |
| ・3 年生の時 | 低：18% | 中：40% | 高：42% |
| ・4 年生の時 | 低：25% | 中：28% | 高：47% |
| ・今振り返って | 低：20% | 中：34% | 高：45% |

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 4 章 教育の成果及び改善システム）」（4 / 5）

指摘された事項への改善の取組（AL 入門・Co+work に関するアンケート 分析結果）

2) 回答をまとめると以下ようになった。

- ・身に付いたこととして、グループワークやリーダーシップを挙げている回答が多かった。
- ・低評価の回答の理由として、教員（進め方、評価）の差を挙げている回答が多かった。

3) 「メモをとる技術」以外は、高評価（「そう思う」）の回答が多かった。特に、「必要に応じた報告・連絡・相談」、「コミュニケーション力」、「話し合いの技術」の評価が高かった。

一通りの能力を身につけることができたと思われる。特に、「協同」に関する能力を身につけることができた学生が多いと思われる。

| | | | |
|-----------------|-------|-------|-------|
| ・時間（スケジュール）管理能力 | 低：19% | 中：39% | 高：42% |
| ・必要に応じた報告・連絡・相談 | 低：15% | 中：21% | 高：64% |
| ・コミュニケーション力 | 低：13% | 中：20% | 高：67% |
| ・リーダーシップ力 | 低：11% | 中：33% | 高：56% |
| ・自主性 | 低：13% | 中：34% | 高：53% |
| ・話し合いの技術 | 低：13% | 中：26% | 高：61% |
| ・メモをとる技術 | 低：26% | 中：42% | 高：32% |
| ・情報収集能力 | 低：22% | 中：31% | 高：47% |
| ・企画・アイデア力 | 低：16% | 中：28% | 高：56% |

4) 「8 人チームの方が 4 人チームより良かった」、「地域との関わりをもっと増やしたい」以外は、高評価（「そう思う」）の回答が多かった。特に、「学年が上がるごとに責任感が増した」、「他学科他学年と交流できてよかった」の評価が高かった。

ほとんどの学生は、Co+work に何らかの意義を見出していると思われる。

| | | | |
|-----------------------------|-------|-------|-------|
| ・Co+work を受講できて良かった | 低：19% | 中：27% | 高：54% |
| ・Co+work での経験は社会に出た時に役立つと思う | 低：14% | 中：26% | 高：60% |
| ・担当教員の指導は適切だった | 低：16% | 中：39% | 高：45% |
| ・最終評価は納得がいくものだった（全体を通じて） | 低：23% | 中：31% | 高：46% |
| ・学年が上がるごとに責任感が増した | 低：10% | 中：20% | 高：70% |
| ・他学科他学年と交流できてよかった | 低：10% | 中：20% | 高：70% |
| ・8 人チームの方が 4 人チームより良かった | 低：28% | 中：34% | 高：38% |
| ・地域との関わりをもっと増やしたい | 低：26% | 中：42% | 高：32% |

5) 回答をまとめると以下ようになった。

- ・助言・対応に関して、役に立った、不足だった、過剰だった、と意見が割れた。
- ・教員による成績評価（方法）の差の軽減を求める回答が多かった。

助言・対応に関しては、教員の方針と学生の希望の間の差の有無によって意見が割れたと思われるが、過不足のない適度な助言・対応が必要であると思われる。

6) 以下のような回答があった。

- ・社会経験のない学生には、ゼロからテーマを決めるのは無理がある。教員がほとんど関わらないものだった。活動意欲が湧かなかった。一種のプロジェクトとして、参加者を募集する形にする。

※1 学生の回答

- ・成績評価方法を見直す。
- ・無理に外部に出さないようにする。
- ・同じ学科の学生で行いたい
- ・テーマを自由にする。

出典「令和 3 年度第 1 回教員会資料」

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 4 章 教育の成果及び改善システム）」（5 / 5）

指摘された事項への改善の取組（AL 入門・Co+work に関するアンケート 分析結果）

補足：

「アクティブラーニング入門について」と「Co+work について」の項目 1 のみ、学科ごとに集計した。

アクティブラーニング入門について

| | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1) M 科 | 低：23% | 中：38% | 高：38% |
| E 科 | 低：54% | 中：35% | 高：12% |
| C 科 | 低：42% | 中：19% | 高：38% |
| A 科 | 低：71% | 中：14% | 高：14% |

Co+work について

| | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1) M 科 | 低：23% | 中：23% | 高：54% |
| E 科 | 低：35% | 中：50% | 高：15% |
| C 科 | 低：15% | 中：35% | 高：50% |
| A 科 | 低：11% | 中：25% | 高：64% |

M 科：AL 入門、Co+work ともに（比較的）高評価である。※回答数が少ないので、信頼性は低い。

E 科：AL 入門、Co+work ともに（比較的）低評価である。

C 科：AL 入門では高評価と低評価に割れているが、Co+work では高評価である。

A 科：AL 入門では低評価であるが、Co+work では高評価である。

出典「令和 3 年度第 1 回教員会資料」

資料 1 - 1 - ④ - 14

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 5 章 学生の受入れ）」（48 / 4）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

**（改善を要する点）**

- ・ 相対評価から絶対評価に移行した中学校側の成績評価変更の影響については、今後とも追跡調査を行い、より適切な選抜方法を検討する必要がある。
- ・ 編入学選抜において、過去 5 年に志願者ゼロの学科があるため、原因を分析して、優秀な受験者を増やす取り組みが必要である。
- ・ 女子中学生へのアピールはここ 5 年間で一定の成果を上げているが、まだ学生全体の中での割合は少なく、今後も継続することが必要である。
- ・ 志願者確保の方法として、平成 27 年度から、兵庫県の高등학교の学区再編により受験校の選択の自由度が大きくなったため、本校を受験する生徒の動向を適切に把握し、志願者確保の対策を練る必要がある。
- ・ 専攻科の学生定員に対する充足率が 200%を超えることがあり、講義室等の定員を超える可能性がある。
- ・ これまでに社会人の専攻科入学生が 1 人もおらず、企業への広報活動について検討する必要がある。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p.116」

資料 1 - 1 - ④ - 14

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 5 章 学生の受入れ）」（2 / 4）

指摘された事項への改善の取組（志願者確保対策例）

**資料 1**

R3.11.10 教員会

教務主事団報告事項

~~~~~（略）~~~~~

3 志願者確保関係

(1) トライやる・ウィーク

- 11/8(月) 大会議室 学生課（午前），C 科（午後）
- 11/9(火) 大会議室 E 科
- 11/10(水) 視聴覚教室 M 科
- 11/11(木) 大会議室 C 科（午前），総務課（午後）
- 11/12(金) 視聴覚教室 A 科

(2) 学校案内（A4 サイズ全 24 ページの冊子）

2021 年末ころまでは 2019 年度版の在庫あり。今年度中に 2022 年度版の原稿完成協力依頼

- 写真の撮影と収集をお願いします。
学科等の授業・設備，グローバル，AL，行事（研修旅行，高専祭など）
各種課外活動（コンテスト，プロジェクトを含む）など
- 紹介学生の選出：1 月 24 日（月）まで
各科 学科生 4 名，専攻科生 1 名

(3) web サイト上での広報

- (a) 学校説明動画（志願者確保委員長）：順次更新
- (b) 学科説明動画
追加・更新をお願いします。動画編集作業を技術教育支援センターに依頼済み。個別で相談を。
- (c) 課外活動紹介動画：日程調整中
- (d) 学生による課外活動紹介動画（募集中）
- (e) 学生制作動画（募集中）
2 件の応募あり。修正依頼中

(4) 行事

- | | | | |
|----------|-------------|-----------|--------------------------|
| 10/ 4(月) | 18:00-20:00 | 入試説明会（姫路） | 参加者数 21 名（中学生 10，保護者 11） |
| 10/ 5(火) | 18:00-20:00 | 入試説明会（三田） | 参加者数 25 名（中学生 12，保護者 13） |
| 11/ 3(水) | 9:30-16:00 | 入試説明会 | 参加者数 98 名（中学生 50，保護者 48） |
| 11/20(土) | | 入試説明会 | |
| 11/21(日) | | 入試説明会 | |
| 12/ 3(土) | | 入試説明会 | |

~~~~~（略）~~~~~

資料 1-1-④-14

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 8 章 管理運営等）」（3 / 4）

指摘された事項への改善の取組（産学連携活動の推進）

**2021(令和3)年度 明石高専テクノセンター委員会名簿** 令和3年4月28日

| 役 職        | 所 属          | 氏 名   |
|------------|--------------|-------|
| センター長      | 都市システム工学科・教授 | 神田 佳一 |
| 専攻科長(研究主幹) | 専攻科・教授       | 中西 寛  |
| 副テクノセンター長  | 自然科学系・教授     | 武内 将洋 |
|            | 電気情報工学科・教授   | 大向 雅人 |
|            | 建築学科・准教授     | 荘所 直哉 |
|            | 都市システム工学科・助教 | 生田 麻実 |
| 事務部        | 総務課長         | 鶉野 晃弘 |
|            | 産学連携コーディネーター | 澤田 俊郎 |

|      |                                |        |
|------|--------------------------------|--------|
| 外部委員 | 東播磨県民局地域振興室室長補佐                | 前田 英樹  |
| 外部委員 | 明石市産業振興財団企業支援担当係長              | 芦田 祐喜子 |
| 外部委員 | ACT135明石理事                     | 澤田 俊郎  |
| 外部委員 | 高砂市政策部シティプロモーション室 移住・定住・観光担当主幹 | 藤田 文子  |

|      |                   |       |
|------|-------------------|-------|
| 事務担当 | 総務課教育・研究プロジェクト支援室 | 萩野 弘貴 |
| 事務担当 | 総務課教育・研究プロジェクト支援室 | 吉見 拓馬 |

出典「令和3年度第4回テクノセンター委員会資料」

資料 1-1-④-14

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 8 章 管理運営等）」（4 / 4）

指摘された事項への改善の取組（専攻科の学生定員に対する充足率）

平均入学定員充足率計算表

| 課程      | 学科・専攻名        | 項目      | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 入学定員に対する各平均比率 |      |
|---------|---------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|---------------|------|
| 準学士     | 機械工学科         | 入学者数    | 42     | 43     | 42     | 42     | 42     | 42     | 42    | 42    | 1.05          |      |
|         |               | 入学定員    | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40    | 40    |               |      |
|         |               | 入学定員充足率 | 1.05   | 1.07   | 1.05   | 1.05   | 1.05   | 1.05   | 1.05  | 1.05  |               |      |
|         | 電気情報工学科       | 入学者数    | 41     | 42     | 42     | 42     | 43     | 42     | 43    | 42    | 41            | 1.04 |
|         |               | 入学定員    | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40    | 40    | 40            |      |
|         |               | 入学定員充足率 | 1.02   | 1.05   | 1.05   | 1.07   | 1.05   | 1.07   | 1.05  | 1.05  | 1.02          |      |
|         | 都市システム工学科     | 入学者数    | 42     | 42     | 42     | 42     | 43     | 42     | 42    | 42    | 42            | 1.05 |
|         |               | 入学定員    | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40    | 40    | 40            |      |
|         |               | 入学定員充足率 | 1.05   | 1.05   | 1.05   | 1.05   | 1.07   | 1.05   | 1.05  | 1.05  | 1.05          |      |
|         | 建築学科          | 入学者数    | 43     | 42     | 41     | 42     | 43     | 42     | 42    | 42    | 41            | 1.04 |
| 入学定員    |               | 40      | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40     | 40    | 40    |               |      |
| 入学定員充足率 |               | 1.07    | 1.05   | 1.02   | 1.05   | 1.07   | 1.05   | 1.05   | 1.05  | 1.02  |               |      |
| 専攻科     | 機械・電子システム工学専攻 | 入学者数    | 18     | 14     | 17     | 17     | 8      | 13     | 6     | 7     | 1.56          |      |
|         |               | 入学定員    | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8     | 8     |               |      |
|         |               | 入学定員充足率 | 2.25   | 1.75   | 2.12   | 2.12   | 1.00   | 1.62   | 0.75  | 0.87  |               |      |
|         | 建築・都市システム工学専攻 | 入学者数    | 18     | 17     | 15     | 16     | 11     | 8      | 8     | 12    | 11            | 1.68 |
|         |               | 入学定員    | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8     | 8     | 8             |      |
|         |               | 入学定員充足率 | 2.25   | 2.12   | 1.87   | 2.00   | 1.37   | 1.00   | 1.50  | 1.37  |               |      |
|         | 入学者数          |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |
|         | 入学定員          |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |
|         | 入学定員充足率       |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |
|         | 入学者数          |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |
| 入学定員    |               |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |
| 入学定員充足率 |               |         |        |        |        |        |        |        |       |       |               |      |

出典「平均入学定員充足率計算表」



資料 1-1-④-15

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 6 章 学生支援）」（1 / 3）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

(改善を要する点)

- ・ 進路指導は各学科等において適切に実施されているが、保護者から、全体のプログラムを把握できないとの要望があり、入学初年度から在学期間を通した進路指導の方針・計画を示すことが必要である。
- ・ 自主的な活動のスペースとして協同学習センター、福利施設を解放しているが、数多くの自主活動プロジェクトがあり、更なるスペースの確保が必要である。
- ・ 学生相談室では、学生の悩みや相談を受けるために、臨床心理士によるカウンセリングの時間を確保する努力をしているが、非常勤勤務ということもあり、十分なケアが行き届いていないことが懸念される。
- ・ 課外活動のための、体育施設が少なく活動に苦慮している。各施設をローテーションで使用しているが、特に冬季の屋外施設は、日照時間の関係で使用時間が少なくなる。照明器具の設置等の改善が必要である。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p.158」

資料 1-1-④-15

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 6 章 学生支援）」（2 / 3）

指摘された事項への改善の取組（進路指導年間計画）

| 令和3年度進路指導年間計画 | | | | | |
|---------------|---|--|--|--|--|
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 |
| 目標 | 専門分野に対して広い視野を持つ | 専門分野に対して広い視野を持つ | 進路に対する意識を高める | 進路の意志決定 | 進路を決定 |
| 全体 | (6/26-7/4)保護者懇談会 | (6/26-7/4)保護者懇談会 | (6/26-7/4)保護者懇談会 | (6/26-7/4)保護者懇談会 | 6/1~就職校長推薦書
(10/1~)就職内定 |
| | | | | (4月)インターンシップ説明会、希望調査
(5-7月)インターンシップ事前指導
(8-9月)インターンシップ実地指導
(9-10月)インターンシップ事後指導
(10月、1月)インターンシップ発表会 | (11-1月)学科特別講演会 |
| | | | | (11-1月)学科特別講演会 | |
| | | | (1/20-21)3年生生活研修 | (11-3月)保護者対象進路説明会・懇談会 | (1月)卒業オリエンテーション |
| | (2月)キャリア支援セミナー | | | (5月)キャリア支援セミナー | |
| M科 | (6-7月)保護者懇談時に進路に関する相談および進路実績等に関する情報開示
(1月)正担任(学科教員)より機械工学科および他学科の進学先、就職先の紹介 | (5月)専門科目学習法と進路についての担任講和
(6月)保護者面談時に進路実績などの情報開示
(1月)キャリア形成に関する担任講話 | (4月)担任による就職活動の話
(6月)個別面談、進路希望調査
(8-7月)保護者懇談時に進路実績等の情報開示
(8月)担任による就職・進学の話(5M進路状況について)
(12月)企業による技術紹介
(1月)担任による就職・進学の話
(就職活動、企業、大学等の情報提供) | (5月)進路希望等面談
(7月)就職合同セミナー
(11月)個別進路相談、OB講話
(12月)個別進路相談、OB講話
(1月)進路希望調査、個別進路相談、就職セミナー、OB講話
2月)OB講話
3月)新5年生保護者対象進路説明会 | (4月-10月)個別進路相談、履歴書・エントリーシート作成指導、面接練習
(1月)卒業オリエンテーション |
| | (5月)専門学科講話(コース分け等、進路に関する内容を含む)
(6月)専門学科講話(国際交流インターンシップに関して)
(6月)専門学科講話(電気情報工学科卒業生の進路に関して)
(1月)専門学科講話(進路に関して1)
(1月)専門学科講話(進路に関して2) | (6月)専門学科講話(コース分け等)
(7月)専門学科講話(学生による企業研究の発表)
(1月)専門学科講話(学生による企業研究の発表2)
(2月)専門学科講話(過去の進路データの紹介) | (4月)コース分け・研究室配属・進路の概要説明、第1回コース選択調査、個別面談
(6-7月)保護者面談(進路について、保護者の質問に答える形で説明)
(10月)コース選択時に考慮することの説明
(11月)教育課程表の説明・コース選択準備調査
(1月)コース選択本調査・進路選択時に考慮することの説明
2月)担任から贈る言葉 | (4月)個別面談、進路希望調査
(5月)インターンシップに関する話
(6-7月)保護者懇談で進路に関する説明と相談
(10月)進路希望調査
(12月)大学説明会、先輩の体験談
(10月~1月)進路希望に関する個別相談
(1月)エントリーシート書き方講座、進路資料室についての説明、インターンシップ報告会
2月)次年度の学科長・担任による進路説明会
3月)就職希望学生に対する今年度と次年度の学科長・担任による面接練習および次年度の学科長による面談
3月下旬~次年度の学科長による就職希望者の保護者懇談会、エントリーシートの作成指導 | (4月)進学希望学生に対する昨年度と今年度の学科長・担任による個人面談と面接練習、今年度の担任による進学希望学生の保護者懇談会
(4-10月)学科長(就職担当)と担任(進学担当)による個別進路相談
(1月)卒業オリエンテーション |
| E科 | (5月)専門学科講話(コース分け等、進路に関する内容を含む)(7月)専門学科教員による講話(2回)及び担当教員講話
(1月)C科OB(国土交通省)による講話 | (11月)OQIによる就職・進路についての講話
(1月)専門学科教員による関係分野における研究と仕事についての講話予定 | (6月)進路に関する講話
(11月)日本製鉄(明石高専OB)によるキャリア支援セミナー(12月)PROGテストによる自己分析
(1月)履歴書・自己分析シートの説明および作成指導
2月)社会人に向けたマナー指導(2月)進路希望・インターンシップ希望調査 | (4月)第1回進路希望調査(4月)個別面談(以降、随時)
(4-6月)自己分析
(4-7月)インターンシップ事前指導(6月)保護者懇談時に進路説明(10月)第2回進路希望調査(11月)上級生による進路報告会(進学・就職)(12月)5年進路決定者による進学の体験談(1-3月)履歴書、エントリーシート、面接指導(2月)学生・保護者対象進路説明会 | (4月)就職希望学生の個人面談(4月)企業説明会
(4-10月)個別進路相談、エントリーシート・履歴書作成指導、面接練習
(5月)進学希望学生の個人面談(5月)大学編入学出願開始
(11月)進路未定者懇談 |
| | (4月)グローバル社会におけるキャリア形成初期講座 | (4月)進路について、クラス学生全員と、個別に懇談した。
(11月)留学を希望する学生に、個別に、グローバル化するなかでの進路について、関連する教員とも連携をばかってアドバイスした | (4月)担任によるキャリアガイダンス
(6月)保護者との面談で進路の希望その他を聞く。
(10月)授業企画主催の進路相談セミナー、4年生のインターンシップ報告会に参加
(12月)PROGテストで本人の適性を知る。テスト結果は2月に通知。
(1月)卒業生による講話(2月)進路に関する意識調査 | (4月)担任による個人面談、進路説明会
(5月)第1回進路希望調査、インターンシップ説明会
(6月)キャリア支援指導①
(7月)キャリア支援指導②、研究室・指導教員への訪問と面談、インターンシップの事前指導
(8-9月)キャリア支援指導③、インターンシップの実施
(10月)インターンシップ報告会、キャリア支援指導③
(11月)第2回進路希望調査
(12月)保護者懇談会、進路指導(就職/進学)
(1月)学生対象進路説明会
(1-3月)進路指導(就職/進学)
(3月)近畿地区高専生対象の就職合同説明会への参加 | (4-6月)就職希望学生の応募書類の作成指導、個人面接指導
(4-10月)進学希望学生の指導、大学編入学出願開始
(11月)進路未定者懇談及び指導 |
| A科 | | | | | |
| | | | | | |

資料 1-1-④-15

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 6 章 学生支援）」（3 / 3）

指摘された事項への改善の取組（常勤カウンセラーの採用）

独立行政法人国立高等専門学校機構
明石工業高等専門学校
National Institute of Technology (OITE), Akashi College

お問い合わせ > アクセス > 教育・研究施設 > 教職員公募 > English Google カスタム検索 Q

在校生の方 > 学生・保護者の方 > 地域・企業の方 > 卒業生の方 >

学校案内 | 学科・専攻科 | 入試情報 | 学生生活 | 就職・進学 | 教育・研究 | 地域・国際連携 | 産学官連携

学生相談室

あなたと一緒に

HOME > 学生相談室 > 相談員紹介

学生相談室

- > 利用案内
- > KOSEN健康相談室
- > ハラスメントの防止
- > 相談員紹介
- > Q&A
- > 学生相談室だより

相談員紹介

学生相談の窓口は、学生相談室または保健室ですが、相談室員へ直接連絡しても結構です。
学生相談室の開室時間等の情報は利用案内をご覧ください。

メールは予約に使用してください。メール、電話での相談は受け付けておりません。

> 利用案内

| 名前 | 所属 | メールアドレス |
|-------|---------|---------------|
| 松塚 | 審美・機械工学 | n-matsu |
| 周山 | 電気情報工学 | suyama |
| 黒田 | 人文科学系 | h.kuroda |
| 井上（英） | 人文科学系 | hinoue |
| 丸尾 | 学生課 | gakusei-kacho |
| 岩本 | 学生課 | iwamoto |
| 川端 | 看護師 | h.kawabata |
| 森脇 | カウンセラー | |
| 廣津 | カウンセラー | |
| 小野 | カウンセラー | |

出典「明石高専 Web サイト_学生相談室>相談員紹介」

資料 1 - 1 - ④ - 16

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 7 章 研究状況及び学外への教育サービス）」（55 / 2）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

**（改善を要する点）**

- 研究状況
  - ・科学研究費補助金の申請と採択については、更なる充実を目指して教職員の積極的な申請を促す必要がある。
  - ・共同研究、受託研究の件数、金額は伸びているが実用化されたものが誕生していないので、今後企業のニーズを調査しながら実用化に結びつく研究を行う必要がある。
- 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況
  - ・テクノセンターの活動においては、本学研究者の産学連携活動の割合を増やすため、地元産業界の産業構造研究、ニーズ調査、人材育成事業などを引き続き積極的に行い、それらを通じて産学連携活動をさらに活性化する必要がある。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p.185」

指摘された事項への改善の取組（科学研究費補助金採択向上制度）

**科学研究費補助金採択向上制度について**

各学科等からの推薦により、下記の者を科研アドバイザーとする

| 学 科 等     | 職 名 | 氏 名       | 備 考 |
|-----------|-----|-----------|-----|
| 機械工学科     | 准教授 | 岩 野 優 樹   |     |
| 電気情報工学科   | 准教授 | 上 泰       |     |
| 都市システム工学科 | 教 授 | 神 田 佳 一   |     |
| 建築学科      | 准教授 | 荘 所 直 哉   |     |
|           | 准教授 | 水 島 あかね   |     |
| 人文科学系     | 准教授 | 井 上 英 俊   |     |
| 計         |     | <b>6名</b> |     |

出典「令和 3 年度科研費アドバイザー一覧」

資料 1-1-④-17

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 8 章 管理運営等）」（56 / 4）

「改善を要する点」として指摘された事項

~~~~~ (略) ~~~~~

（改善を要する点）

○施設・設備

- ・本館・電気都市棟及び機械建築棟の増築を伴う大改修から15～17年が経過し、外壁等の劣化に伴う大雨時の漏水も起きている。屋上防水を含めたこれらの改修整備を年次計画で実施していく必要がある。
- ・校内道路の舗装が劣化し、凹凸状の路面が多く見られる。敷設後20年以上が経過した給排水・ガス・電力等のインフラと併せて改修整備する必要がある。

○財務

- ・近隣の企業や自治体との更なる連携を図り、受託研究、共同研究などの外部資金獲得に努めるとともに、科学研究費補助金等の獲得のための取組を積極的に行う必要がある。
- ・単年度においては計画的に予算が執行されているが、建物、設備等の老朽化に対応するため、中、長期的な予算の計画を立てる必要がある。

○管理運営

- ・校務合理化を進めていくために運営組織の見直しを行う必要がある。

出典「平成 28 年度自己点検・評価報告書 p. 218」

資料 1-1-④-17

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 8 章 管理運営等）」（2 / 4）

指摘された事項への改善の取組（校務合理化）

運営会議 資料 5

H28.12.14

運営会議資料

校務合理化

これまでの企画会議，運営会議の検討を経て校務合理化を以下の通り行う。

（1）校務運営組織

校務運営組織は以下の通りとし，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長に運営業務を集約する。学生指導の主を成すクラス経営を組織化し，クラス経営主幹の下担任団として業務遂行する。学生相談室はこれまでの業務に加えキャリア支援を担当できる組織として編成し，独立性を担保する。イノベーションオフィスは企画会議の命を受け業務遂行する。

標準人員枠に対して計画校務分担人員は少ない状態として人的遊撃性は確保しているが，必要校務に割り振り校務運営組織に全教員が所属するものとする。原則として校務運営組織の重複所属はないものとする。校務合理化概観は別紙参照。

クラス経営担任団（仮） 学級運営，学生指導全般を担う

教務主事室（仮） 教育計画立案，教務業務を掌理する

学生主事室（仮） 厚生補導，施設整備業務を掌理する

寮務主事室（仮） 学寮厚生補導，グローバル教育環境整備業務を掌理する

専攻科長室（仮） 社会地域連携推進，研究推進，高度教育推進業務を掌理する

キャリア支援室（仮） 学生支援業務を掌理する

イノベーションオフィス 企画会議の命を受け，総合企画立案および企画推進，広報業務を掌理する

（2）選考順序

教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，（副校長），キャリア支援室（仮）長，イノベーションオフィス長，クラス経営主幹の案を校長より提示する。キャリア支援室（仮）長を除いて運営会議委員とする。上記役職者を除いて各科にて運営会議委員（学科長等）を推挙する。

以上について校長了承の後，運営会議委員とキャリア支援室（仮）長により校務担当教員を選考する。

（3）合理化の推進

組織外形の集約後，各組織の長の主導により業務の実質合理化を推進する。

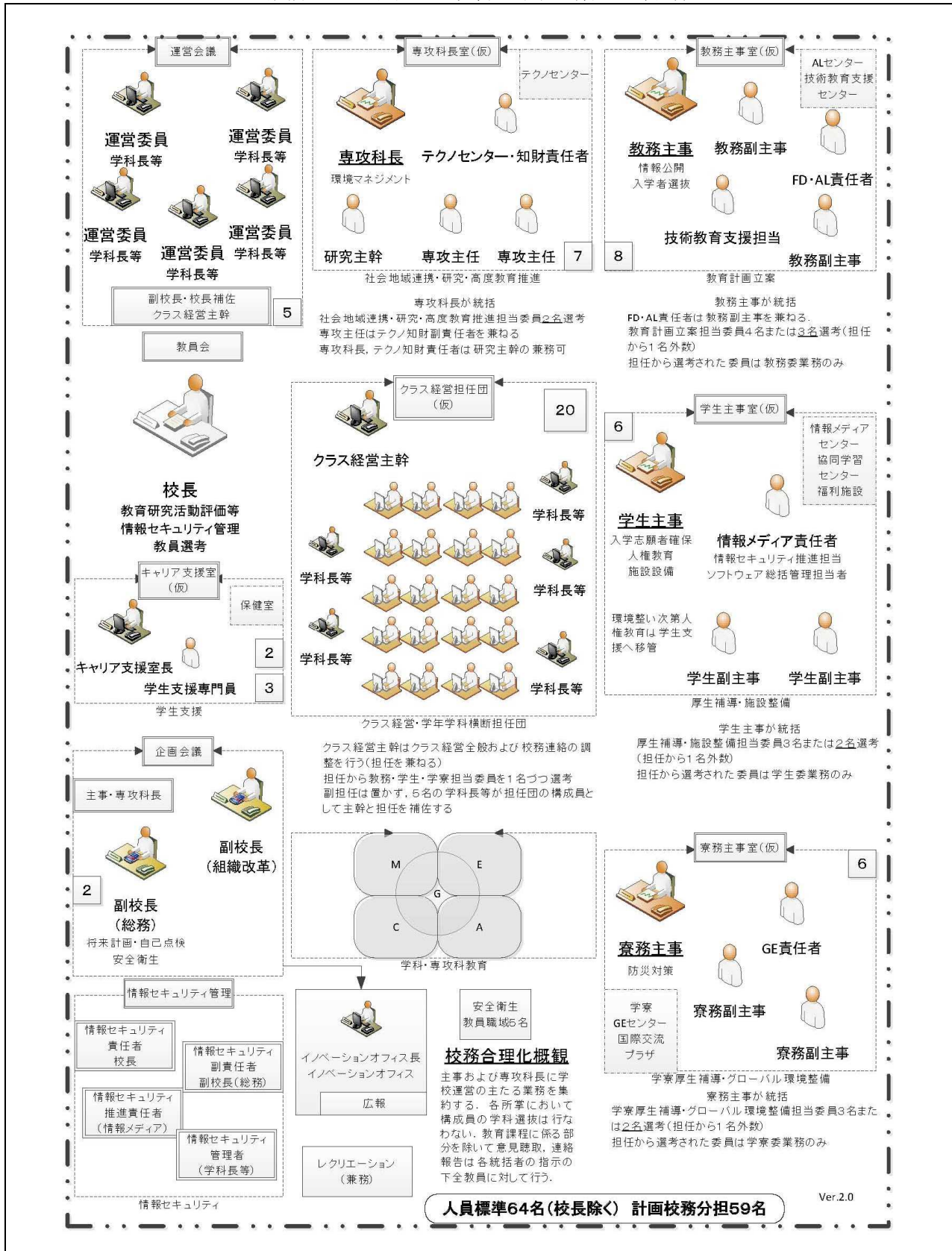
（4）学校運営喫緊課題

文科省，機構からも指摘されている課題はインシデント対応である。総合事故事案，学生事案，情報セキュリティ事案のそれぞれに対応できる体制を引き続き整える。

資料 1-1-④-17

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 8 章 管理運営等）」（3 / 4）

指摘された事項への改善の取組（管理運営等）



出典「平成 28 年度第 8 回運営会議資料」

資料 1 - 1 - ④ - 17

「平成 28 年度自己点検・評価報告書で指摘された事項への改善の取組がわかる資料（第 3 章 教育内容と方法）」（4 / 4）

指摘された事項への改善の取組（校務分担）

| 令和3年度校務分担 | | | | | | |
|----------------------------|---------------|--------------|--------------------|-----------------|--------------|--------------|
| | | | | | 令和3年10月22日現在 | |
| 校 長 | | | | | | |
| 副 校 長 | (総務担当) | | | | | |
| 校 長 補 佐 | (教務担当) | (学生担当) | (寮務担当) | (専攻科・連携担当) | | |
| 副校長、校長補佐の任期はR5. 3. 31まで | | | | | | |
| 主事等 任期: 主事はR5. 3. 31まで | | | | | | |
| 教務主事 | | | 教務副主事 | | | |
| 学生主事 | | | 学生副主事 | | | |
| 寮務主事 | | | 寮務副主事 | | | |
| 学科長等 | | | | | | |
| 機械工学科長 | 電気情報工学科長 | 都市システム工学科長 | 建築学科長 | 人文科学系長 | 自然科学系長 | |
| 学校施設長 | | | | | | |
| 情報メディアセンター長 | 技術教育支援センター長 | テクノセンター長 | グローバルエデュケーションセンター長 | アクティブラーニングセンター長 | 学生支援オフィス長 | イノベーションオフィス長 |
| 学級担任 | | | | | | |
| クラス経営主幹 | | | | | | |
| 区 分 | 機械工学科 | 電気情報工学科 | 都市システム工学科 | 建築学科 | | |
| 学 級 担 任 | 第1学年 | | | | | |
| | 第2学年 | | | | | |
| | 第3学年 | | | | | |
| | 第4学年 | | | | | |
| | 第5学年 | | | | | |
| 専攻科長等 任期: 専攻科長はR5. 3. 31まで | | | | | | |
| 専攻科長 | | | | | | |
| 専攻主任 | 機械・電子システム工学専攻 | | 建築・都市システム工学専攻 | | | |
| 研究主幹 | | | | | | |
| <情報メディアセンター> | | | | | | |
| 図書館長 | 情報センター長 | 情報センター副センター長 | 情報センター員 | | | |
| <学生支援オフィス> | | | | | | |
| 学 生 相 談 室 | 学生相談室長 | | | | | |
| | 健康相談部門 | | | | | |
| | 学生相談部門 | | | | | |
| ク ラ ス 担 任 団 体 経 営 | クラス経営主幹 | | | | | |
| | キャリア支援部門 | | | | | |
| | クラス経営部門 | | | | | |
| 事務部 | | | | | | |
| <ハラスメント相談員> | | | | | | |
| ~~~~~ (略) ~~~~~ | | | | | | |

出典「令和3年度 校務分担表」

資料 1-2-①-1

「準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が示されている資料」

機械工学科のディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

機械工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、機械工学の理論や技術を様々な分野に応用し、倫理観と責任感をもって社会に貢献する多種多様な業種・職種で活躍できる人材の育成をします。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、歴史、文化、社会などの様々な背景を伴って発展する産業技術を理解し、国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、機械工学が社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

機械工学の様々な理論や技術（材料分野、エネルギー分野、計測・制御分野、生産・加工分野、設計分野）をバランスよく修得し、様々な分野に応用できる。さらに日々進歩する新しい技術へも応用できる。日本語によるプレゼンテーションや文章作成により意図することを効果的に表現でき、英語によるコミュニケーションができる。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1 - 2 - ① - 2

「準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が示されている資料

電気情報工学科のディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

電気情報工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、エレクトロニクスや情報通信技術（ICT）が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮しながら、電気・電子回路やコンピュータプログラミングなどの基本的な設計技法を統合することによって新しいシステムを創造できる人材を育成します。また、コース制教育を導入し、高度化する技術に十分対応できる技術者の育成を目指します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

○ 電気電子工学コース

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。インターネット等で情報を適切に収集した上で活用すべき情報を選択でき、内容や影響範囲に配慮しながら発信できる。異なった文化を理解しながら国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。電気・電子工学と情報工学の基礎学力を持ち、それらが社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

電気・電子工学分野における幅広い知識と情報工学分野を中心とする他の専門分野の基本的な設計技法を統合することによって、急速な技術革新に対応する新しいシステムを創造できる。日本語による分かりやすいプレゼンテーションと誤解なく理解される文章作成、英語による基礎的コミュニケーションができる。

○ 情報工学コース

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。インターネット等で情報を適切に収集した上で活用すべき情報を選択でき、内容や影響範囲に配慮しながら発信できる。異なった文化を理解しながら国際的に活躍できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポートが作成でき口頭発表ができる。電気・電子工学と情報工学の基礎学力を持ち、それらが社会や自然環境に及ぼす影響を理解できる。

3. 専門的能力

情報工学分野における幅広い知識と電気・電子工学分野を中心とする他の専門分野の基本的な設計技法を統合することによって、急速に変化し続ける情報化社会に新たな価値を生むシステムを創造できる。日本語による分かりやすいプレゼンテーションと誤解なく理解される文章作成、英語による基礎的コミュニケーションができる。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1 - 2 - ① - 3

「準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が示されている資料

都市システム工学科のディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

都市システム工学科は、本校が掲げる教育目標のもと、自然環境に配慮しながら、道路、ダム、橋、トンネルや上下水道などの社会基盤の調査、計画、設計、施工や維持管理に携わることによって、社会の持続的発展に貢献できる能力を持った人材を育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、歴史、文化、社会などの背景や地域性、多様性を理解し、国際性と指導力を発揮できる。

2. 基礎的能力

自然科学・社会科学の基礎知識を修得するとともに、それらを活用して専門分野の基本的な課題について、レポート作成やプレゼンテーションができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、都市システム工学や土木工学の定義とその対象が理解できる。

3. 専門的能力

専門科目として、測量、材料、構造、地盤、水理、環境、土木計画などに関する知識、技術を身に付け、地球環境保全や自然との共生に配慮しながら、機能的で快適な都市、地域やそれらを有機的につなぐ道路などの計画、橋、上下水道などの公共施設の設計、施工や維持管理に活用できる。未曾有の自然災害や想定外の環境変化などの問題も的確に理解、論理的に分析でき、その解決や技術の発展にも対応できる。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-2-①-4

「準学士課程の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が示されている資料

建築学科のディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシーはどのような能力を身に付けた者に卒業を認定するのかを定める方針です。

建築学科は、本校が掲げる教育目標のもと、自然環境や多様な社会との調和のうちに、豊かな空間を実現するため建築空間を構築する芸術的要素と技術的要素の両者を統合する柔軟かつ創造的な設計デザイン能力を備えた人材を育成します。そのために以下に示す能力を身に付け、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

1. 分野横断的能力

協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。また、多様化する社会を俯瞰的に把握し、歴史、文化、社会などの背景を伴って生まれた地域性を理解し、かつ国際性と指導力を発揮できる。

2. 基礎的能力

自然科学について基礎知識を修得し、専門分野の基本的な課題解決に適用できる。文化・社会科学の基礎知識を修得し、レポート、演習課題が作成でき口頭発表ができる。工学的基礎知識と幅広い教養をもとに、建築の芸術的側面と技術的側面が理解できる。

3. 専門的能力

建築学科の各専門分野（計画・歴史、構造・材料、環境・設備、施工、法規）とそれらを総合したデザインを学び、その表現方法として設計製図に関する知識を修得し、建築技術者として社会に貢献できる。都市や建築の実践的な問題解決能力を備え、日本語や英語によるコミュニケーション能力のみならず、図面、CGによる建築的プレゼンテーションができる。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1 - 2 - ② - 1

「準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針
(カリキュラム・ポリシー) が示されている資料」**機械工学科のカリキュラム・ポリシー**

カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針です。

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学び、2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。機械工学実験や工作実習などではグループワークやレポート作成などの機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、(地理、歴史)を開講しています。機械工学の技術者に最低限必要なプログラミングや電気工学の基礎知識を学ぶための科目を開講しています。情報通信技術 (ICT) を学ぶため、情報系科目を開講しています。グローバル社会に必要な異文化対応能力を身に付けるため、英語、中国語などの語学系科目や異文化理解を深める科目を開講しています。

3. 専門的能力

機械工学の基礎を学ぶため、1年次より工作実習(4年次まで)、設計製図(5年次まで)を開講し、設計や生産の基礎を学びます。3年次、4年次は機械工学で重要な4力学(材料力学、流体力学、熱力学、機械力学)を中心に学び、さらに機械工学実験を通して、それらの知識をより深めます。5年次には4力学だけでなく自動制御なども学ぶとともに、それまで学んだ知識を活用して卒業研究に取り組みます。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-2-②-2

準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針
(カリキュラム・ポリシー) が示されている資料]

電気情報工学科のカリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針です。

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、電気電子工学コース・情報工学コースの教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。

各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

○ 電気電子工学コース**1. 分野横断的能力**

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを経験的に修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型PBL科目を開講しています。5年次の実験科目では、これらの集大成として、システム設計に取り組みます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、(地理、歴史)を開講しています。電気・電子・情報分野で共通して必要となる情報分野の基礎知識をデータサイエンスやプログラミングに関する講義で学びます。また、基礎的な実験スキルも学びます。コース制教育に向けた基礎を電気回路や電子工学に関する講義で習得するとともに、情報工学の基礎知識も講義や実験を通して身に付けます。

3. 専門的能力

電気電子工学の専門性を深めるため、電気磁気学や固体物性、パワーエレクトロニクスなどについて学びます。さらに、情報工学分野に関する知識も習得できるように、計算機や通信方式、数値計算等に関する講義を開講しています。専門的な知識や能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、4年次に課題研究、5年次に卒業研究に取り組みます。

○ 情報工学コース

1. 分野横断的能力

1 年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学びます。2 年次から 4 年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを経験的に修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。5 年次の実験科目では、これらの集大成としてアプリ開発に取り組みます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため、数学およびサイエンスを開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため、国語、英語、(地理、歴史)を開講しています。電気・電子・情報分野で共通して必要となる情報分野の基礎知識をデータサイエンスやプログラミングに関する講義で学びます。また、基礎的な実験スキルも学びます。コース制教育に向けた基礎をマイクロコンピュータやデジタル電子回路に関する講義で習得するとともに、電気電子工学の基礎知識も講義や実験を通して身に付けます。

3. 専門的能力

情報工学の専門性を深めるため、オペレーティングシステム、人工知能、データベースなどについて学びます。さらに、電気電子工学分野に関する知識も習得できるように、電気回路や電子回路、制御工学などに関する講義を開講しています。専門的な知識や能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、4 年次に課題研究、5 年次に卒業研究に取り組みます。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1 - 2 - ② - 3

準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針
(カリキュラム・ポリシー) が示されている資料

都市システム工学科のカリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針です。

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、各科目の関連や学習過程が理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次には、主体的な学習方法とグループワークの進め方を学びます。2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように、学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。いずれもレポート作成、グループ学習やプレゼンテーションの機会を設けています。4年次から5年次にかけては、インターンシップや卒業研究を通じた社会との関わりの中で幅広い思考力を身に付けます。

2. 基礎的能力

世界の様々な文化や歴史を理解し、広く豊かな教養を身に付けるための語学、美術などの人文社会系、芸術系科目や、専門知識の修得に必要な数学やサイエンスなどの自然科学系科目を開講しています。また、社会基盤施設の施工、維持管理などへの活用が進む人工知能 (AI) や IoT の基礎を学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

専門的な基礎知識を学修するため、1~4年次に測量、材料、構造、水理、地盤、環境、土木計画などに関する専門基礎科目を開講しています。それらの理解を体験的に深め、科学的現象の論理的な分析能力を修得するために、実習や実験などの科目を各学年に配置しています。高学年次には、より実務に近い専門応用科目を修得するとともに、それらの知識や専門能力を活用し、工学的課題を解決するための総合学習として、卒業研究に取り組みます。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-2-②-4

準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針
(カリキュラム・ポリシー) が示されている資料)

建築学科のカリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める方針です。

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づき、各学科の教育課程を編成しています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように、教育課程表とカリキュラムマップを公開しています。各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次には主体的な学習方法およびグループワークの進め方を学び、2年次から4年次までは、コミュニケーション能力、協働能力、課題発見から問題解決までのプロセスを修得し、社会に貢献できるように学年学科横断型 PBL 科目を開講しています。1年次の異文化理解を深めるための科目では世界にさまざまな文化や歴史があることを理解し、民族の文化を相対的な視点から学びます。いずれの科目もレポート作成、グループ学習、口頭発表の機会を設けています。また、3年次から5年次までの建築設計演習ではグループによる設計課題があり、4年次には海外の学生とのグループワークにより異文化協働のプロセスを体験します。

2. 基礎的能力

自然科学の基礎知識を修得するため理数系科目を開講し、文化・社会科学の基礎知識を修得するため文化・語学系科目を開講しています。建築学科で求められる芸術的素養を身に付けるために美術、造形を開講しています。情報通信技術 (ICT) の基礎を学ぶため情報系科目、グローバル社会に必要な異文化対応能力を身に付けるための語学系科目等を開講しています。

3. 専門的能力

1年次、2年次は専門的な基礎知識を学ぶために建築設計演習、建築一般構造、造形、情報基礎、建築史などの専門基礎科目を学びます。3年次、4年次は計画系、構造系、環境系科目を学びながら、設計課題に取り組みます。5年次にはより実務に近い設備、法規、生産などを学ぶとともに、知識や専門能力を活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会として、卒業研究に取り組みます。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-2-④-1

「専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が示されている資料」

The screenshot shows the website of Akashi College, National Institute of Technology. The main navigation bar includes links for 'Admission', 'Students/Parents', 'Local/Industry', and 'Graduates'. Below the navigation is a banner for 'School Information' (学校案内) with a photo of the campus. The 'Three Policies' (三つのポリシー) section is highlighted, containing a list of links for 'School Information' and 'Three Policies'. The 'Three Policies' section is further divided into 'Subjects' (学科) and 'Specialized Courses' (専攻科). The 'Specialized Courses' section is expanded to show 'Diploma Policy' (ディプロマ・ポリシー) for two courses: 'Mechanical and Electronic System Engineering' (機械・電子システム工学専攻) and 'Building and Urban System Engineering' (建築・都市システム工学専攻). The 'Diploma Policy' section explains that it defines the criteria for recognizing graduation based on the ability of students. It lists three categories of abilities: 1. Interdisciplinary ability (分野横断的能力), 2. Basic ability (基礎的能力), and 3. Specialized ability (専門的能力). Each category includes a detailed description of the expected skills and knowledge for graduates.

本校は、三つの方針について、2 専攻に共通したものとしているが、専攻ごとに定めていると捉えている。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1 - 2 - ⑤ - 1

「専攻科課程の修了の認定に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が示されている資料」

カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するのかを定める方針です。

【機械・電子システム工学専攻】

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得する各専攻独自の教育課程を独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づいて組み立てています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように教育課程表を公開しています。各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次の創発ゼミナールでは、グループ作業を通じて協調と作業分担、管理的役割を体験し、問題解決能力を実践的に養い、自らの成果をまとめ口頭発表する機会を設けています。また、専攻科特別講義では専門分野の異なる複数の教員による多様な話題について、分野横断的に技術開発動向について説明することで知見を広げ、技術分野を超えた普遍的な考え方や柔軟な開発対応力を養成します。

2. 基礎的能力

論文発表等の技術的な表現能力を高めるために、プレゼンテーションの基礎を学ぶための科目を開講しています。また、国際標準の教養と感性、異文化対応能力を身に付けるため、語学系科目や、様々な民族の文化を相対的な視点から学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

機械・電子システム工学専攻の専門知識を身に付けるため、機械・設計関連、システム制御関連、電子・物性関連および情報・通信関連分野の発展的な専門応用科目を開講しています。さらに、民間企業や官公庁などにおいて技術体験を通じて実践的技術感覚を会得するために、専攻科インターンシップを行います。1年次には機械・電子システム工学分野の研究を担当教員の下で行う工学基礎研究に取り組み、分析レベルの専門能力を養います。2年次には工学基礎研究を基礎として、学士授与に相応しいテーマで専攻科特別研究に取り組みます。

【建築・都市システム工学専攻】

以下に示す分野横断的能力、基礎的能力、専門的能力を修得する各専攻独自の教育課程を独立行政法人国立高等専門学校機構が定めたモデルコアカリキュラムに基づいて組み立てています。学生が学習方法を理解しやすいように、学習内容と成績評価方法を記したシラバスを公開し、また、各科目の関連や学習過程を理解しやすいように教育課程表を公開しています。各科目の成績評価は、100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。

1. 分野横断的能力

1年次の創発ゼミナールでは、グループ作業を通じて協調と作業分担、管理的役割を体験し、問題解決能力を実践的に養い、自らの成果をまとめ口頭発表する機会を設けています。また、専攻科特別講義では専門分野の異なる複数の教員による多様な話題について、分野横断的に技術開発動向について説明することで知見を広げ、技術分野を超えた普遍的な考え方や柔軟な開発対応力を養成します。

2. 基礎的能力

論文発表等の技術的な表現能力を高めるために、プレゼンテーションの基礎を学ぶための科目を開講しています。また、国際標準の教養と感性、異文化対応能力を身に付けるため、語学系科目や、様々な民族の文化を相対的な視点から学ぶための科目を開講しています。

3. 専門的能力

建築・都市システム工学専攻の専門知識を身に付けるため、構造系、水理系、地盤系、計画系などの発展的な専門応用科目

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-2-⑥-1

「専攻科課程の修了の認定に関する方針（アドミッション・ポリシー）が示されている資料」

アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、どのように入学者を受け入れるかを定める方針です。
自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待していません。

1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人
2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人
3. 自己の専門分野以外にも学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人

選抜方針は以下のとおりです。

・推薦選抜：学校長推薦

高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・推薦選抜：社会人特別推薦

高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外にも学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。

・学力選抜

高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

本校専攻科のアドミッションポリシーは、2専攻に共通である。

出典「明石高専 Web サイト_学校案内>三つのポリシー」

資料 1-3-①-1

「ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正に関する資料」

1. ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正について

平石委員から、MCC の「基礎的能力」「専門的能力」「分野横断的能力」の 3 つの能力毎に記述した建築学科の案について説明があり、それに基づき意見交換をした。

学校の理念や教育目標との整合性がとれるようにキーワードを入れること、必ずしも学年毎に記載する必要がないこと、学科の各能力の内容の前に学科のリード文を記載すること、基礎的能力については専門性との継続を記載することなどの意見をもとに、次回臨時教務委員会で再検討することとした。

出典「令和 2 年度臨時教務委員会(令和 2 年 11 月 9 日)議事録 抜粋」

3. ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正について (資料 3)

資料 3 に基づき、以下のとおり確認し、1 月の企画会議に諮るため、年内に Teams の DP・CP 修正 20201223 フォルダに修正版を保存することとした。

- ・ディプロマ・ポリシー基礎的能力の「適応」を「適用」に修正する。
- ・建築・都市システム工学専攻ディプロマ・ポリシーの「土木工学」「都市システム関連」の混在について、再度確認する。
- ・カリキュラム・ポリシーの共通箇所の文言を機械工学科にあわせる。
- ・句読点 (、。) の統一、漢字・ひらがなの統一、誤字脱字の修正をする。

・具体的な科目名については記載せず、〇〇系科目などとし、全学科共通の科目は以下のとおり統一する。

- ・「Co+work」→「学年学科横断型 PBL 科目」
- ・「アクティブラーニング入門」→なし
- ・「グローバルスタディーズ入門」→「異文化理解を深める科目」

・略語について、「AI」→「人工知能 (AI)」、「ICT」→「情報通信技術 (ICT)」のように記載する。

出典「令和 2 年度第 9 回教務委員会(令和 2 年 12 月 23 日)議事録 抜粋」

(2) ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正について

教務主事から資料2に基づき、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの修正について、高専機構の教務主事勉強会において見直しの方針が示され、各学科の特色に応じたものとする事及びモデルコアカリキュラム（MCC）との関連を明記することとし、教務委員会で作成したひな型に基づき、各学科、専攻科で検討されたとの経緯説明があった。審議の結果、原案のとおり承認した。

出典「令和2年度第9回運営会議（令和3年1月13日）議事要録 抜粋」

